

1 調査概要

1.1 調査の目的

近年、日本に在住する外国人の数は増加の一途をたどっており、平成 30 年末には 273 万人で過去最高となっている。本市においても同様に在住する外国人の数は増加しており、令和元年 5 月末には 4,159 人で過去最高となり、今後も増加することが予想される。外国人が市内で生活することにより、言語、文化等の違いから、様々な課題が生じることが懸念される。

このことから、市内在住外国人などに関する実態を把握するための意識調査を実施し、外国人市民・日本人市民が多様性をお互いに認め合う多文化共生社会の実現に向けた施策展開の資料とする。

1.2 調査対象・実施方法等

(1) 調査対象

日本人市民、在住外国人市民、企業、市民団体の 4 種類のアンケートを実施した。

- ①日本人市民アンケートは、「U モニ」(浦安市インターネット市政モニター制度)登録者を対象とした。
- ②在住外国人市民アンケートは、浦安市に住居登録している 16 歳以上の外国人を対象とした。
- ③企業アンケートは、浦安鉄鋼団地協同組合登録企業を対象とした。
- ④市民団体アンケートは、浦安市国際センターに団体登録している市民団体を対象とした。

(2) 実施方法

- ・日本人市民アンケートの実施については、U モニ登録者による web 上での回答とした。
- ・在住外国人市民アンケートの実施については、浦安市に住居登録している 16 歳以上の外国人に、日本語・英語・中国語(簡字体)・韓国語・ベトナム語・タガログ語(英語以外に、浦安市の外国人登録数の上位 4 か国の言語を採用)の案内文を郵送し、案内文にあるアドレスまたは、QR コードからアンケートサイトにアクセスし、回答する方法を取った。アンケートサイトでは、日本語の他に、上記 5 言語を選択できるよう設計した。
- ・企業アンケートの実施については、浦安市商工観光課を通して浦安鉄鋼団地協同組合に協力を仰ぎ、登録企業へ調査票を郵送し、FAX・E-メールにて回答を受付けた。
- ・市民団体アンケートの実施については、浦安市国際センター登録団体に、直接または E-メールで調査票を渡した。回答についても同様に、直接または E-メールにて受付けた。

(3) アンケートの調査対象と標本数

アンケート種別	標本数	有効回収数	有効回収率	調査期間
日本人市民(U モニ登録者)	976	444	45.5%	令和元年 9 月 13 日(金) ~9 月 19 日(木)
在住外国人市民	1,943	518	26.7%	令和元年 11 月 1 日(金) ~12 月 31 日(火)
企業	211	82	38.9%	令和元年 10 月 28 日(月) ~12 月 7 日(土)
市民団体	10	10	100%	令和元年 11 月 12 日(火) ~11 月 30 日(土)

(4) 調査結果の見方

- ①アンケート集計結果は、原則としてパーセント(%)で表記している。数値は小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表記している。数値の合計が 100%になるよう調整している場合もある。
- ②「N」はパーセントを算出する基数である。
- ③複数回答の場合は、回答率の合計が 100%にならない。

2 調査結果

2.1 日本人市民向け調査結果

浦安市多文化共生に関する意識調査結果(日本人市民向け)

実施日時 : 令和元年 9 月 13 日(金)～9 月 19 日(木)

実施手法 : 浦安市市政モニター制度(U-モニ)による web 上でのアンケート調査

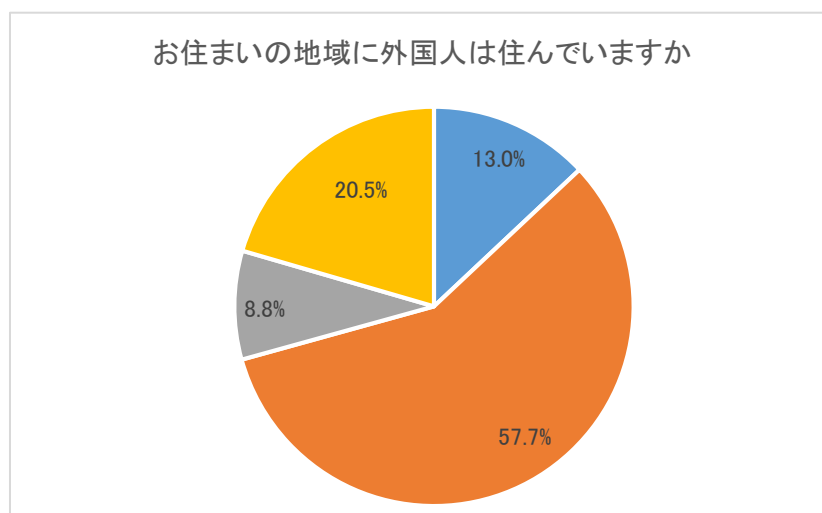
U-モニ登録者数 : 976 人

回答数 : 444 人

回答率 : 45.5%

問1【外国人の居住】

お住まいの地域に外国人は住んでいますか。



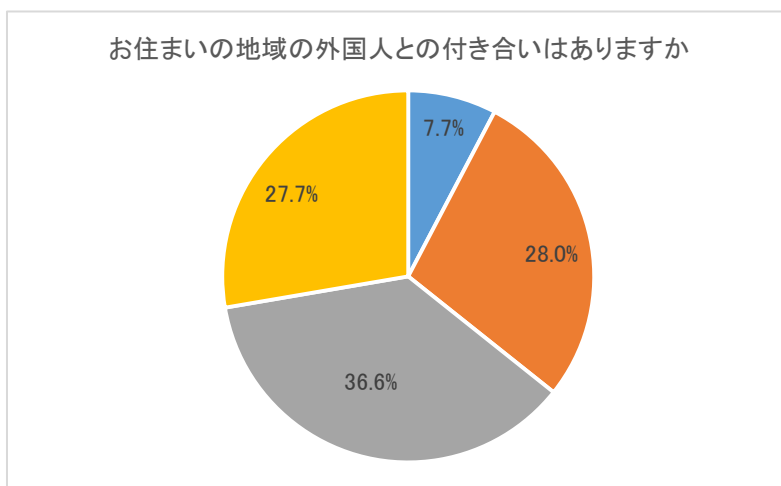
N=444

選択肢	回答数	回答率
多く住んでいる	58	13.0%
多少住んでいる	256	57.7%
住んでいない	39	8.8%
わからない	91	20.5%

「多少住んでいる」と回答した方が 57.7%、「多く住んでいる」と回答した方が 13.0%で、外国人が住んでいると回答した方は合わせて全体の 70.7%となった。一方、「住んでない」と回答した方は 8.8%だった。「わからない」と回答した方は 20.5%だった。

問 2 【外国人との付き合い】

お住まいの外国人との付き合いはありますか。



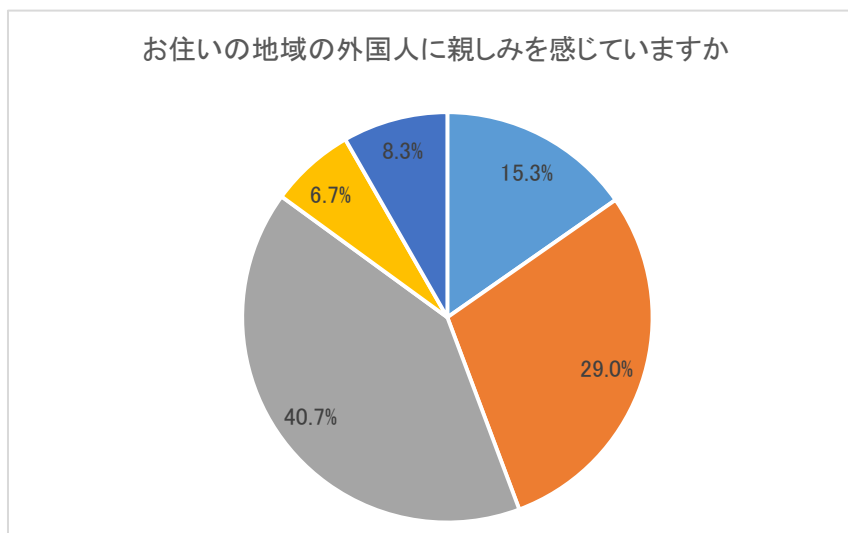
N=314

選択肢	回答数	回答率
親しく付き合っている	24	7.7%
あいさつをする程度の付き合いはある	88	28.0%
ほとんどない	115	36.6%
まったくない	87	27.7%

「親しく付き合っている」と回答した方が 7.7%、「あいさつをする程度の付き合いはある」と回答した方が 28.0%だった。一方、「ほとんどない」と回答した方が 36.6%、「まったくない」と回答した方は 27.7%と全体の約 65%となった。

問 3 【外国人に対する親しみ】

お住まいの地域の外国人に親しみを感じていますか。



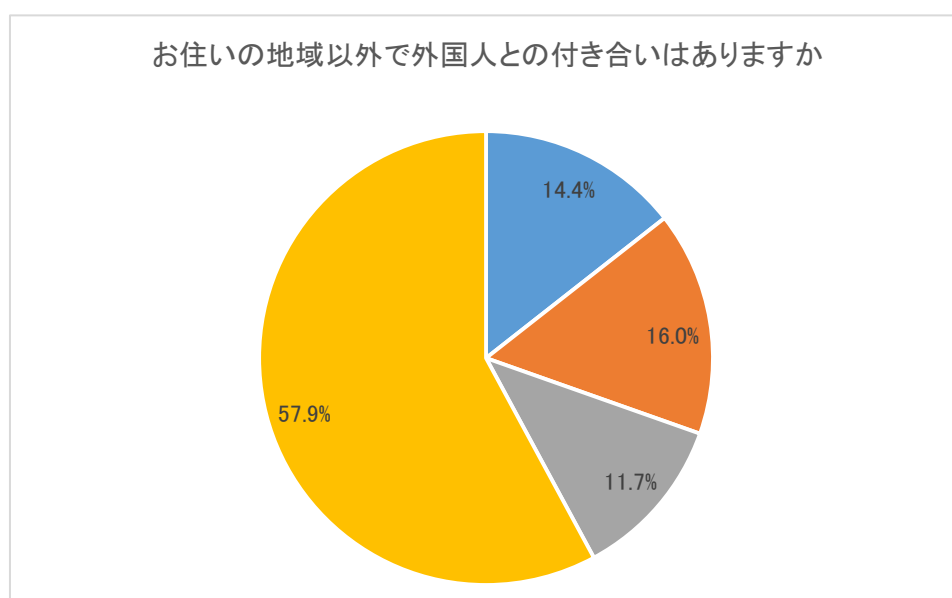
N=314

選択肢	回答数	回答率
親しみを感じる	48	15.3%
どちらかと言えば親しみを感じる	91	29.0%
どちらとも言えない	128	40.7%
どちらかと言えば親しみを感じない	21	6.7%
親しみを感じない	26	8.3%

「親しみを感じる」と回答した方が 15.3%、「どちらかと言えば親しみを感じる」と回答した方は 29.0%となり、合わせて 44.3%の方が地域の外国人に少なからず親しみを感じているという結果となった。一方、「どちらとも言えない」と回答した方が 1 番多く 40.7%、「どちらかと言えば親しみを感じない」と回答した方は 6.7%、「親しみを感じない」と回答した方は 8.3%という結果となった。

問 4 【地域以外での外国人との付き合い】

お住まいの地域以外で外国人との付き合いはありますか。



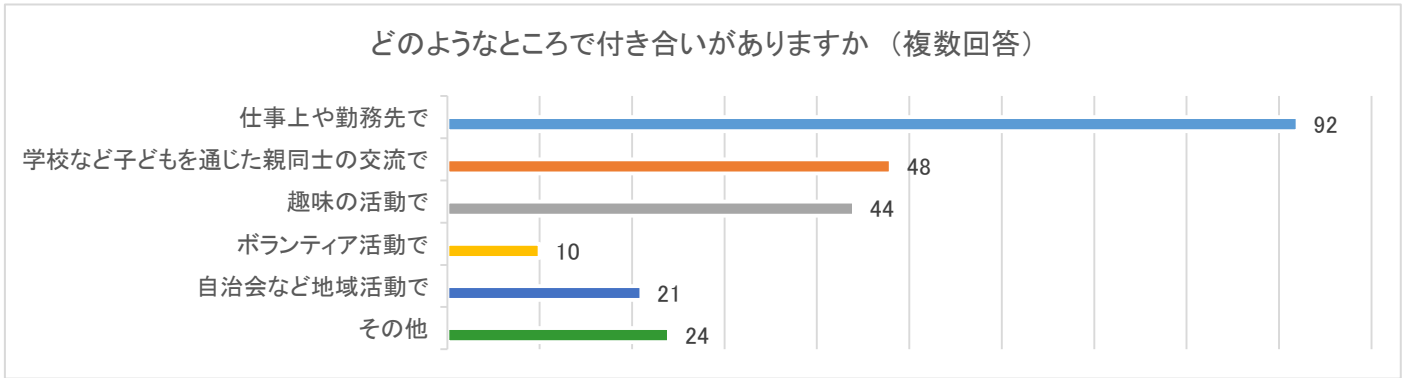
N=444

選択肢	回答数	回答率
親しい友人がいる	64	14.4%
あいさつなど時々言葉を交わす程度の付き合い	71	16.0%
顔や名前を知っている程度	52	11.7%
ほとんどない	257	57.9%

「親しい友人がいる」と回答した方は 14.4%。「あいさつなど時々言葉を交わす程度の付き合い」と回答した方は 16.0%、「顔や名前を知っている程度」と回答した方は 11.7%で、全体の約 4 割程度だった。「ほとんどない」と回答した方が 1 番多く、57.9%だった。

問 5 【外国人との付き合いの場所】

どのようなところで付き合いがありますか。



N=187

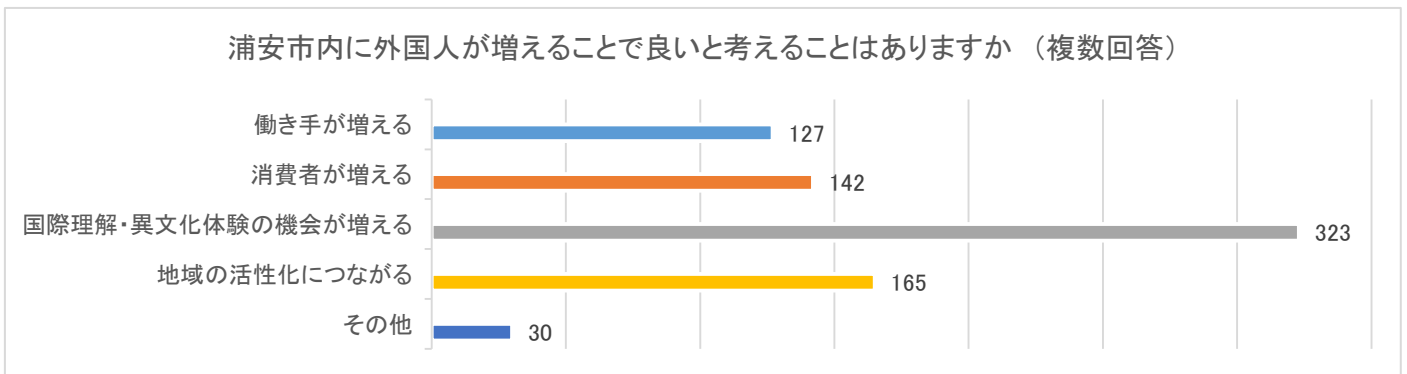
選択肢	回答数
仕事上や勤務先で	92
学校など子どもを通じた親同士の交流で	48
趣味の活動で	44
ボランティア活動で	10
自治会など地域活動で	21
その他	24

その他意見(記述式)	
近所付き合い×5	行きつけのレストランで×1
留学・ホームステイ時の友人×3	特に意識がなく普通に×1
友人との付き合いを通して×3	付き合いなし×1
SNS を通じて×2	具体的記述なし×6
海外居住時に×1	
親族に外国人がいる×1	

1 番多かったのは「仕事上や勤務先で」と回答した方で、92 人の方が回答した。次いで「学校など子どもを通じた親同士の交流で」と回答した方が 48 人、「趣味の活動で」が 44 人と続いた。その他意見としては、「近所付き合い」と回答した方が 5 人、「留学・ホームステイ時の友人」、「友人との付き合いを通して」と回答した方が 3 人、「SNS を通じて」と回答した方が 2 人という結果だった。

問 6 【外国人増加の良い点】

浦安市内に外国人が増えることで良いと考えることはありますか。良いと思うものすべてを選択してください。



N=444

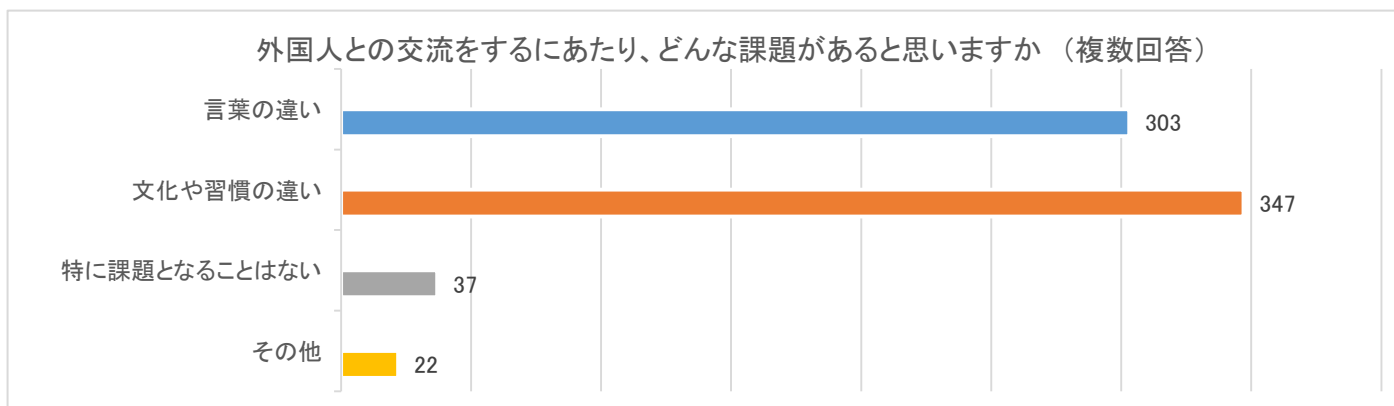
選択肢	回答数
働き手が増える	127
消費者が増える	142
国際理解・異文化体験の機会が増える	323
地域の活性化につながる	165
その他	30

その他意見(記述式)	
ない、良いことはない×12	日本人であることを自覚する×1
外国人による×2	セキュリティの低下×1
外国人を一括りに考えない方がいい×1	特になし×5
ものの考え方が豊かになる×1	わからない×2
旅行に行く機会が増える×1	具体的記述なし×4

1番多かった回答は、「国際理解・異文化体験の機会が増える」で323人が回答した。2番目に多かったのは「地域の活性化につながる」で165人が回答した。次いで「消費者が増える」142人、「働き手が増える」127人という結果だった。その他意見としては、「ものの考え方が豊かになる」、「日本人であることを自覚する」といった意見がある一方で、「ない、良いことはない」と回答した方が12人、「外国人による」が2人、「外国人を一括りに考えない方がいい」という意見もあった。

問7【交流の課題】

外国人との交流をするにあたり、どんな課題があると思いますか。



N=444

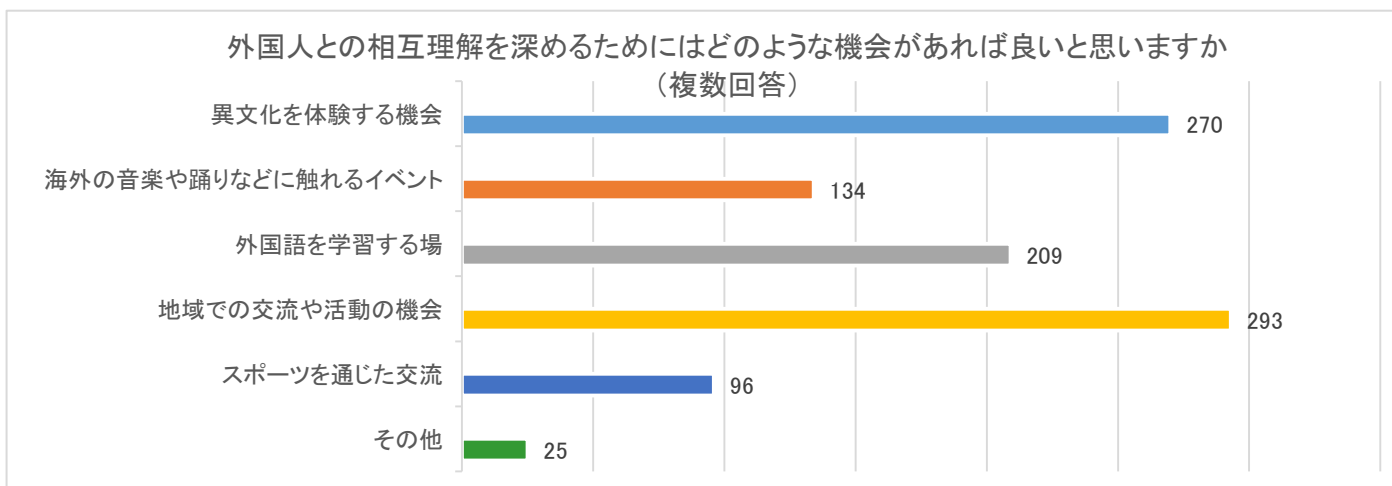
選択肢	回答数
言葉の違い	303
文化や習慣の違い	347
特に課題となることはない	37
その他	22

その他意見	
治安が悪くなる×5	政治×1
マナー×4	住居×1
偏見×3	わからない×2
宗教×2	具体的記述なし×1

1番多かったのは「文化や習慣の違い」で347人が回答した。2番目に多かったのは「言葉の違い」で303人が回答した。「特に課題となることはない」と回答した方は37人で、その他の意見を紹介すると、「治安が悪くなる」と回答した方が5人、ゴミだしなど「生活に関するマナー」に関することについて回答した方が4人、「偏見」と回答した方が3人、「宗教」と回答した方が2人だった。

問8【相互理解を深める機会】

外国人との相互理解を深めるためにはどのような機会があれば良いと思いますか。



N=444

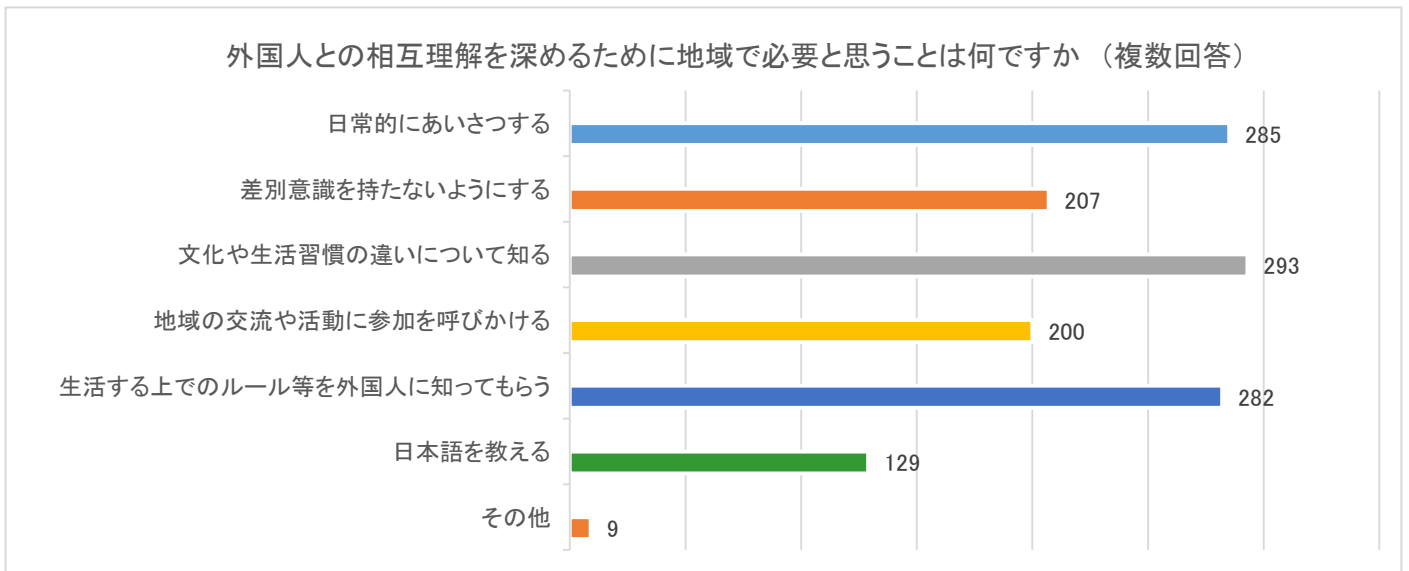
選択肢	回答数
異文化を体験する機会	270
海外の音楽や踊りなどに触れるイベント	134
外国語を学習する場	209
地域での交流や活動の機会	293
スポーツを通じた交流	96
その他	25

その他意見	
外国人自身の日本文化への理解×8	必要ない×4
食を通じた交流×4	わからない×1
学校を通じた交流×3	具体的記述なし×4
情報発信×1	

1番多かったのは、「地域での交流や活動の機会」と回答した方が293人、2番目に多かったのは270人で「異文化を体験する機会」だった。回答者の半数以上が交流や体験の場を望んでいた。その他意見としては、「外国人自身の日本文化への理解」と回答した方が8人、「食を通じた交流」と回答した方が4人、「学校を通じた交流」と回答した方が3人だった。

問9【相互理解】

外国人との相互理解を深めるために地域で必要と思うことは何ですか



N=444

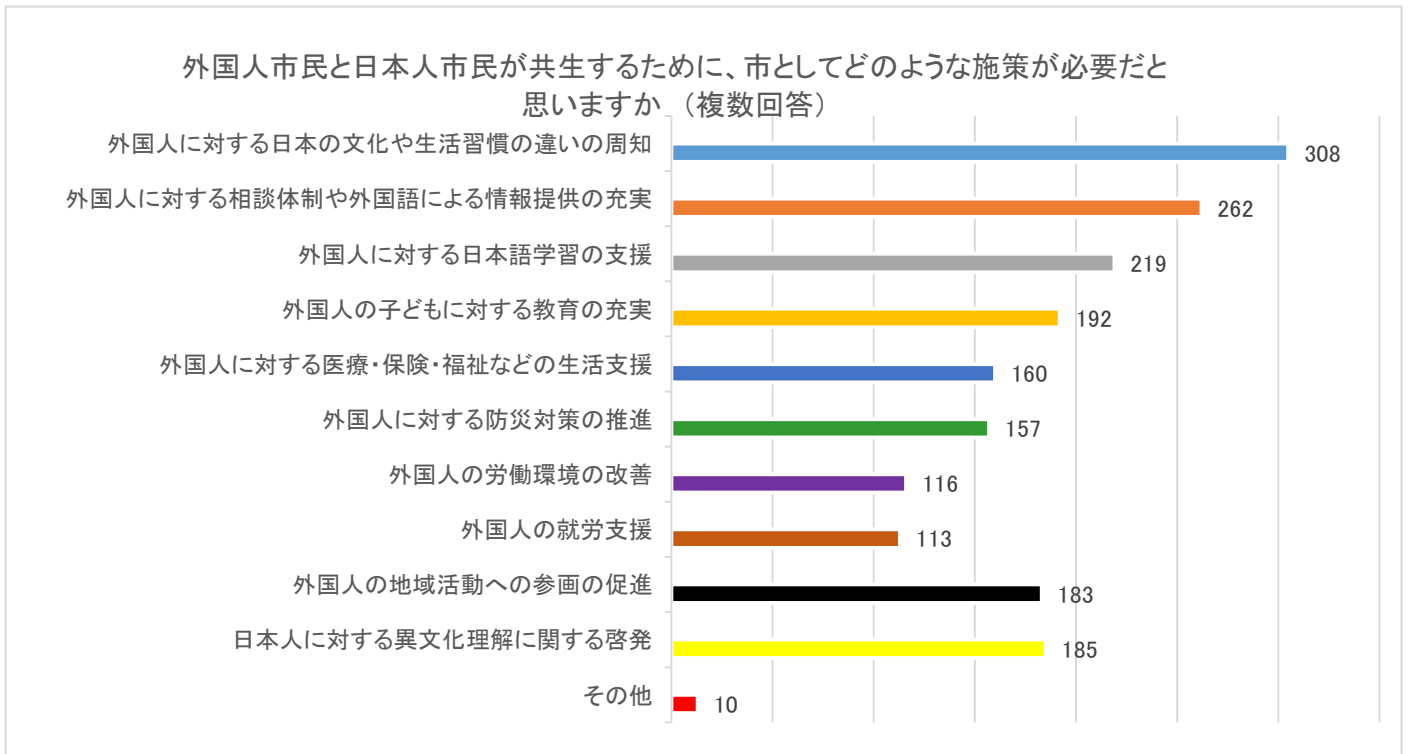
選択肢	回答数
日常的にあいさつする	285
差別意識を持たないようにする	207
文化や生活習慣の違いについて知る	293
地域の交流や活動に参加を呼びかける	200
生活する上でのルール等を外国人に知ってもらう	282
日本語を教える	129
その他	9

その他意見	
外国人自身の日本文化への理解×2	自治会等の配布物の多言語化×1
子どもへの教育×1	家族が外国人×1
外国人と日本人の間に入って問題を解決するボランティアの養成×1	特別扱いしない×1
身近にいる機会が増えること×1	具体的記述なし×1

1番多かったのは「文化や生活習慣の違いについて知る」と回答した方が293人だった。2番目に多かったのは、「日常的に挨拶をする」の285人、3番目が「生活する上でのルール等を外国人に知ってもらう」で282人という結果だった。回答者の半数以上が声掛けや相互理解が必要と感じていた。その他意見としては、「外国人自身の日本文化への理解」と回答した方が2人、他、「外国人と日本人の間に入って問題を解決するボランティアの養成」、「自治会等の配布物の多言語化」、「子どもへの教育」といった意見があった。

問 10 【共生のための施策】

外国人市民と日本人市民が共生するために、市としてどのような施策が必要だと思いますか。



N=444

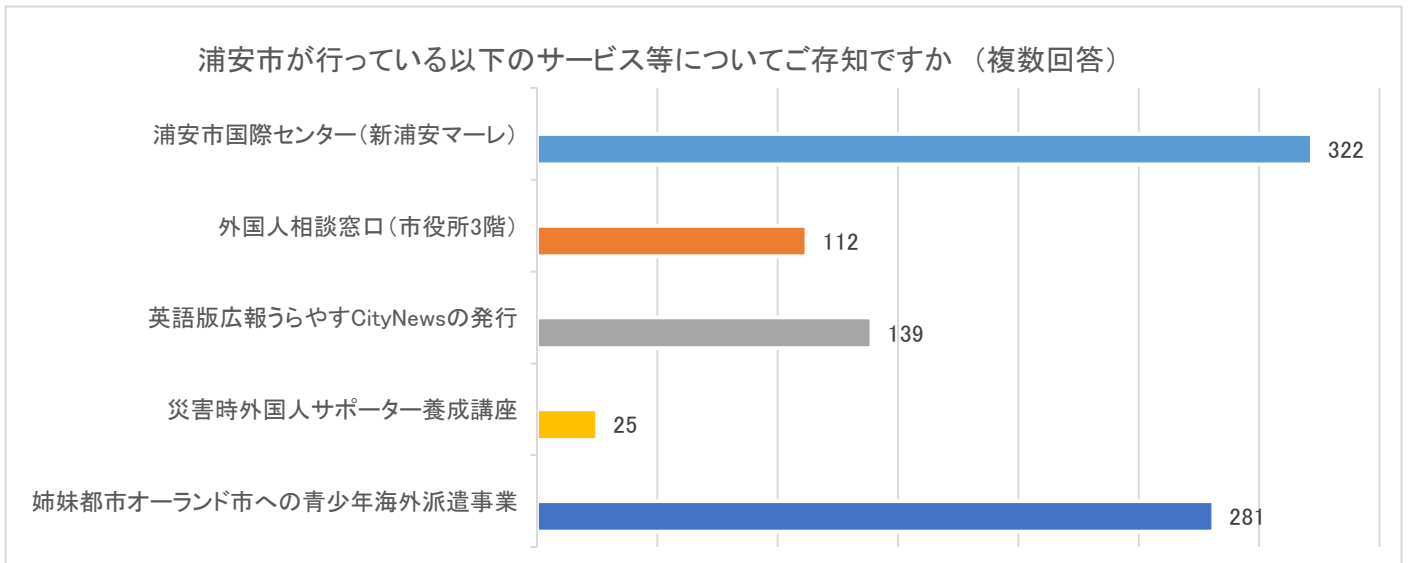
選択肢	回答数
外国人に対する日本の文化や生活習慣の違いの周知	308
外国人に対する相談体制や外国語による情報提供の充実	262
外国人に対する日本語学習の支援	219
外国人の子どもに対する教育の充実	192
外国人に対する医療・保険・福祉などの生活支援	160
外国人に対する防災対策の推進	157
外国人の労働環境の改善	116
外国人の就労支援	113
外国人の地域活動への参画の促進	183
日本人に対する異文化理解に関する啓発	185
その他	10

その他意見
日本人への語学学習の機会×1
住宅確保、最低限の支援、相談窓口の開設×1
英語ができる市職員の常駐、英語による情報発信×1
外国人オーナーの飲食店の出店支援×1
市民が経済的、精神的に豊かで余裕があることを実現する施策×1
市が行っていることを公開すること×1
特になし×2
具体的記述なし×1

1 番多かったのは「外国人に対する日本の文化や生活習慣の違いの周知」で 308 人の方が回答した。日本人に向けた施策として「日本人に対する異文化理解に関する啓発」と回答した人数の 185 人と比べると、外国人への働きかけの必要性を感じている人が多かった。その他意見としては、「日本人への語学学習の機会」や「英語ができる市職員の常駐、英語による情報発信」という意見等があった。

問 11 【浦安市の行政サービス】

浦安市が行っている以下のサービス等についてご存知ですか。



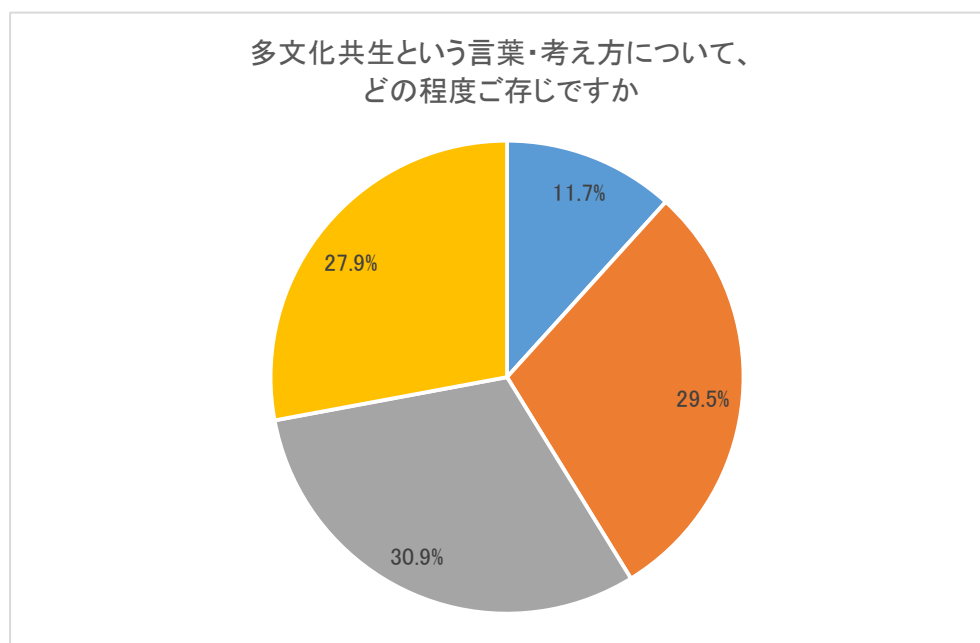
N=444

選択肢	回答数
浦安市国際センター(新浦安マーレ)	322
外国人相談窓口(市役所3階)	112
英語版広報うらやす CityNews の発行	139
災害時外国人サポーター養成講座	25
姉妹都市オーランド市への青少年海外派遣事業	281

「浦安市国際センター(新浦安マーレ)」と「姉妹都市オーランド市への青少年海外派遣事業」については、回答者の半数以上の方が認識していた。

問 12 【多文化共生】

多文化共生という言葉・考え方について、どの程度ご存知ですか。



選択肢	回答数	回答率
よく知っている	52	11.7%
少しは知っている	131	29.5%
言葉だけは知っている	137	30.9%
知らない	124	27.9%

「よく知っている」、「少しは知っている」と回答した方が 4 割程度で、まだ認識度は高くなかった。

問 13 【多文化共生に関する意見】

多文化共生に関してご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。(自由記述)

カテゴリー	件数
多文化共生の考え方	49 件
コミュニケーション(言葉、異文化理解、交流等)	33 件
行政への要望	12 件
アンケートそのものに対する意見	11 件
情報発信(市広報媒体の活用、多言語表記など)	5 件
日常生活上の決まりごと、マナーに関すること	4 件
外国人への要望	4 件
わからない	4 件
その他	5 件

自由意見について、上記表の通りカテゴリーに分類した。多かったのは「多文化共生の考え方」に関する意見だった。その次に多かったのは「コミュニケーション(言葉・異文化理解・交流等)」に関する意見だった。その他意見としては、「中国人留学生による料理のイベントに参加し、日本でがんばっている様子がわかった」という意見があった。

【全体を通じた考察】

- ・外国人が近隣に住んでいると回答した方は、全体の約 70%だったが、付き合いがあると回答したのは約 25%だった。また地域の外国人に親しみを感じると回答したのは全体の 15%近くだった。外国人と付き合いがあるのは仕事や勤務先と回答した方が多かった。
- ・外国人が増えることで良いこととして、国際理解・異文化体験の機会が増えると回答した方が多かった。
- ・外国人との交流上の課題としては、文化・習慣の違い、言葉の違いと回答した方が多かった。外国人と日本人との相互理解を深めるために必要な機会としては、地域での交流や活動の機会や異文化を体験する機会と回答した方が多かった。また、相互理解を深めるために地域で必要なこととしては、文化や生活習慣の違いについて知る、日常的なあいさつをする、生活する上でのルール等を知ってもらうという回答が多かった。
- ・外国人と日本人が共生するために必要な市の施策として、文化・生活習慣の違いの周知、相談体制、外国語による情報提供、日本語支援、外国人の子どもへの教育支援と回答した方が多かった。市が実施しているサービスで 1 番認知度が高かったのは浦安市国際センター、次いでオーランド市との姉妹都市交流だった。
- ・多文化共生という言葉・考え方については、まだ認知度が高いとは言えなかった。

2.2 在住外国人市民向け調査結果

浦安市多文化共生に関する意識調査結果（在住外国人市民向け）

実施日時：令和元年11月1日（金）～12月31日（火）

実施手法：市内在住外国人市民へ郵便による質問票の送付及びweb上での回答

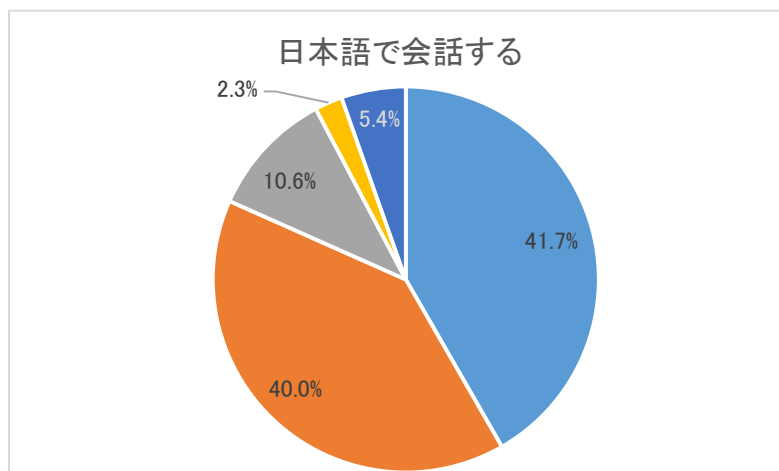
送付数：1,943通（総送付数2,010通、内転居等理由により返却67通）

回答数：518名

回答率：26.7%

問1【日本語能力】

日本語で会話する。

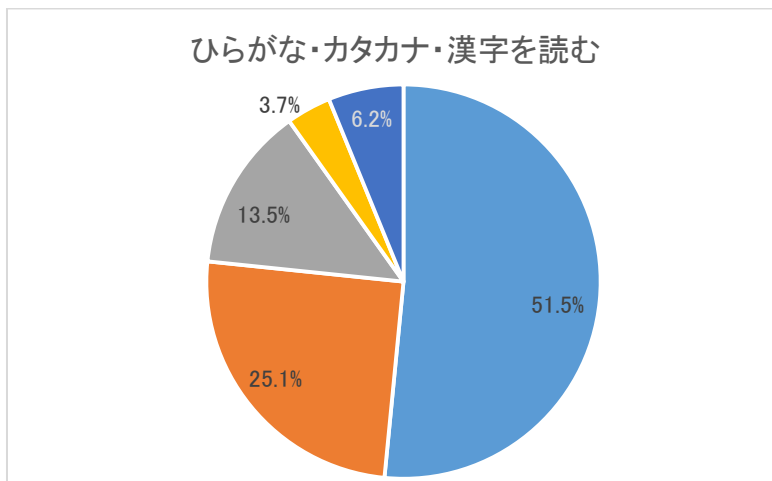


N=518

選択肢	回答数	回答率
よくできる、議論・会議もできる	216	41.7%
日常会話ができる	207	40.0%
あいさつができる程度	55	10.6%
ほとんどできない	12	2.3%
未回答	28	5.4%

「よくできる、議論・会議もできる」と回答した方は全体の41.7%だった。「日常会話ができる」と回答した方は40.0%、「あいさつができる程度」と回答した方は10.6%だった。「ほとんどできない」と回答した方は2.3%だった。

ひらがな・カタカナ・漢字を読む。

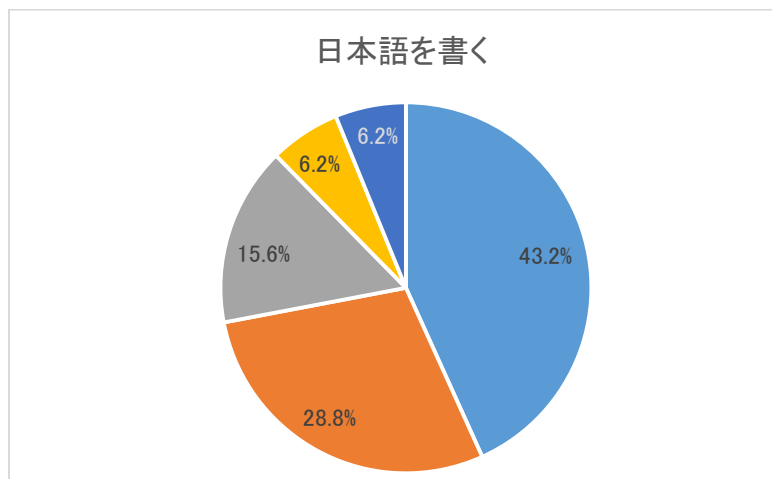


N=518

選択肢	回答数	回答率
よく読める、漢字も読める	267	51.5%
漢字を少し読める	130	25.1%
ひらがな、カタカナが読める	70	13.5%
ほとんどできない	19	3.7%
未回答	32	6.2%

「よく読める、漢字も読める」と回答した方は半数以上の 51.5%だった。「漢字を少し読める」と回答した方は、25.1%、「ひらがな、カタカナが読める」と回答した方は 13.5%だった。「ほとんどできない」と回答した方の 3.7%だった。

日本語を書く。



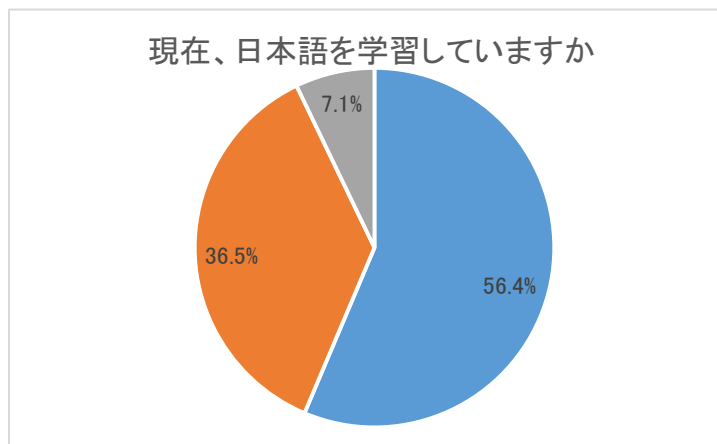
N=518

選択肢	回答数	回答率
よく書ける、漢字も書ける	224	43.2%
漢字を少し書ける	149	28.8%
ひらがな、カタカナが書ける	81	15.6%
ほとんどできない	32	6.2%
未回答	32	6.2%

「よく書ける、漢字も書ける」と回答した方は 43.2%、「漢字を少し書ける」と回答した方は 28.8%、「ひらがな、カタカナが書ける」と回答した方は 15.6%だった。「ほとんどできない」と回答した方は 6.2%だった。

問 2 【現在の日本語学習】

現在、日本語を学習していますか。

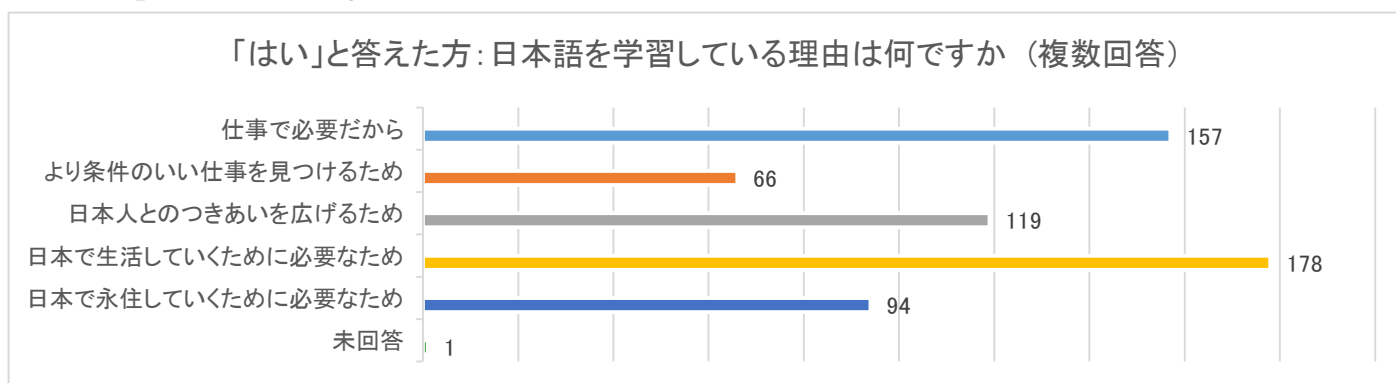


N=518

選択肢	回答数	回答率
はい	292	56.4%
いいえ	189	36.5%
未回答	37	7.1%

「はい」と回答した方は 56.4%と半数以上の方が現在、日本語を学習していると回答した。「いいえ」と回答した方は 36.5%だった。

「はい」と答えた方: 日本語を学習している理由は何ですか。

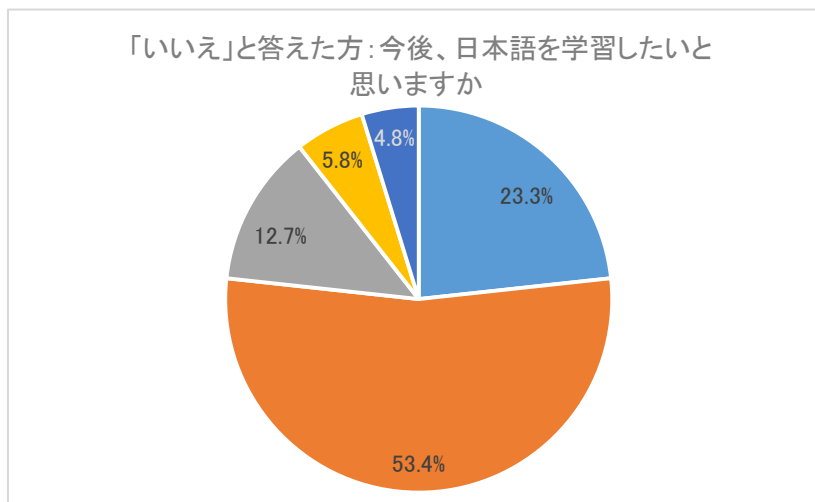


N=292

選択肢	回答数
仕事で必要だから	157
より条件のいい仕事を見つけるため	66
日本人とのつきあいを広げるため	119
日本で生活していくために必要なため	178
日本で永住していくために必要なため	94
未回答	1

1番多かった回答は「日本で生活していくために必要なため」で178の方が回答した。2番目に多かった回答は「仕事で必要だから」で157の方が回答した。3番目に多かったのは「日本人とのつきあいを広げるため」で119の方が回答した。

「いいえ」と答えた方：今後、日本語を学習したいと思いますか。



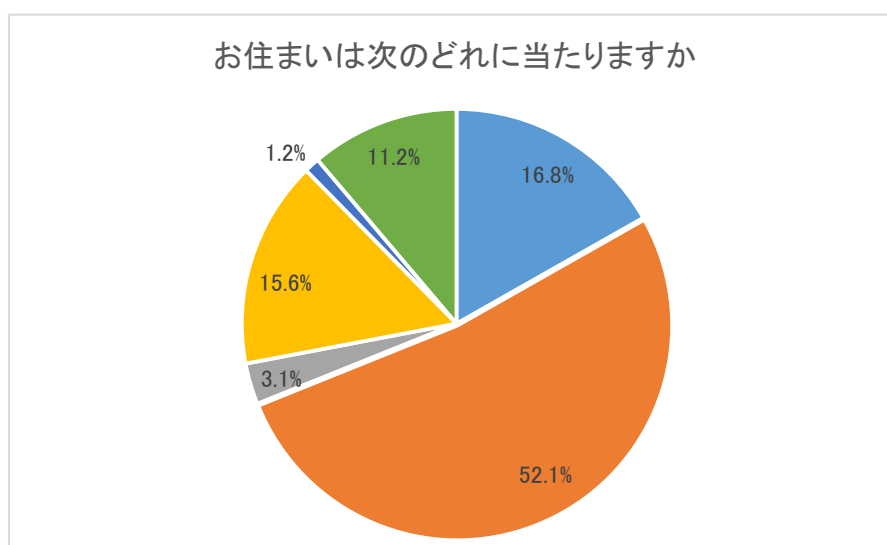
N=189

選択肢	回答数	回答率
学習したい	44	23.3%
機会があれば学習したい	101	53.4%
学習したくない	24	12.7%
わからない	11	5.8%
未回答	9	4.8%

「機会があれば学習したい」と回答した方が半数以上の53.4%だった。「学習したい」の23.3%と合わせると約77%となり、日本語学習を希望する方が多い結果となった。

問3 【住まい・自治会への加入】

お住まいは次のどれに当たりますか。



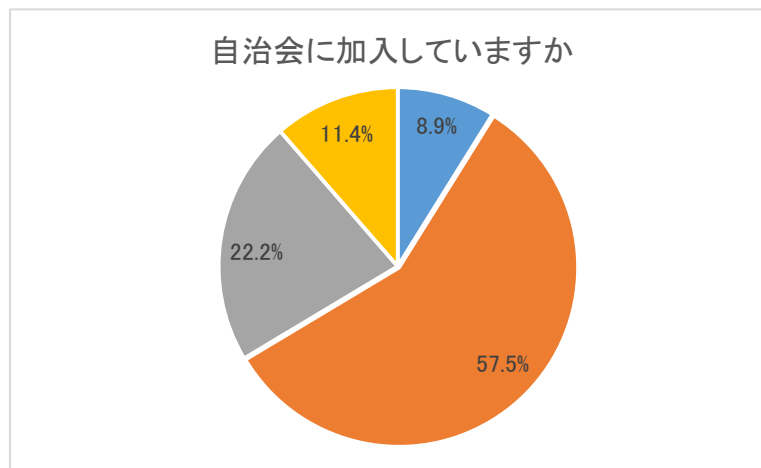
N=518

選択肢	回答数	回答率
会社の社宅や会社契約のアパート	87	16.8%
民間のアパート・マンション	270	52.1%
公営住宅	16	3.1%
持家(マンションを含む)	81	15.6%
その他(具体的にご記入ください)	6	1.2%
未回答	58	11.2%

その他内訳:
ホームステイ×2
シェアハウス×1
友人の家×1
妻の家族の家×1
具体的回答なし×1

「会社の社宅や会社契約のアパート」と回答した方が 16.8%だった。「民間のアパート・マンション」と回答した方は1番多く、52.1%だった。「公営住宅」と回答した方は3.1%、「持家(マンション含む)」は15.6%だった。その他の回答としては、「ホームステイ」と回答した方が2人、「シェアハウス」、「友人の家」、「妻の家族の家」と回答した方がそれぞれ1人だった。

自治会に加入していますか。



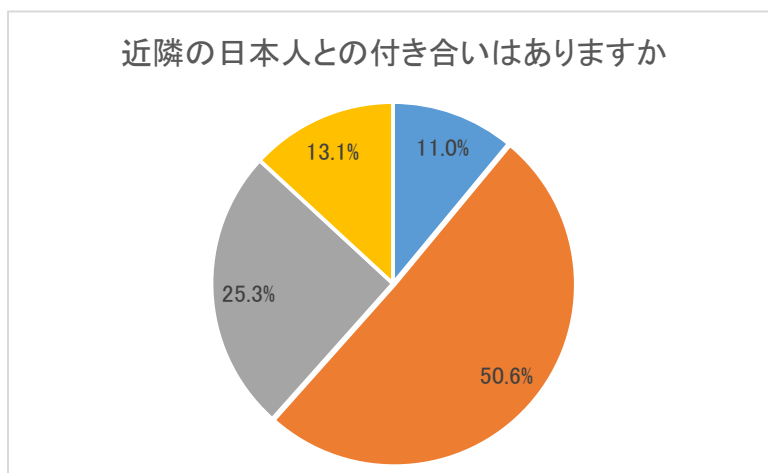
N=518

選択肢	回答数	回答率
加入している	46	8.9%
加入していない	298	57.5%
わからない	115	22.2%
未回答	59	11.4%

「加入している」と回答した方は8.9%だった。「加入していない」と回答した方は半数以上の57.5%だった。「わからない」と回答した方は22.2%だった。

問4 【近所付き合い・活動参加】

近隣の日本人との付き合いはありますか。

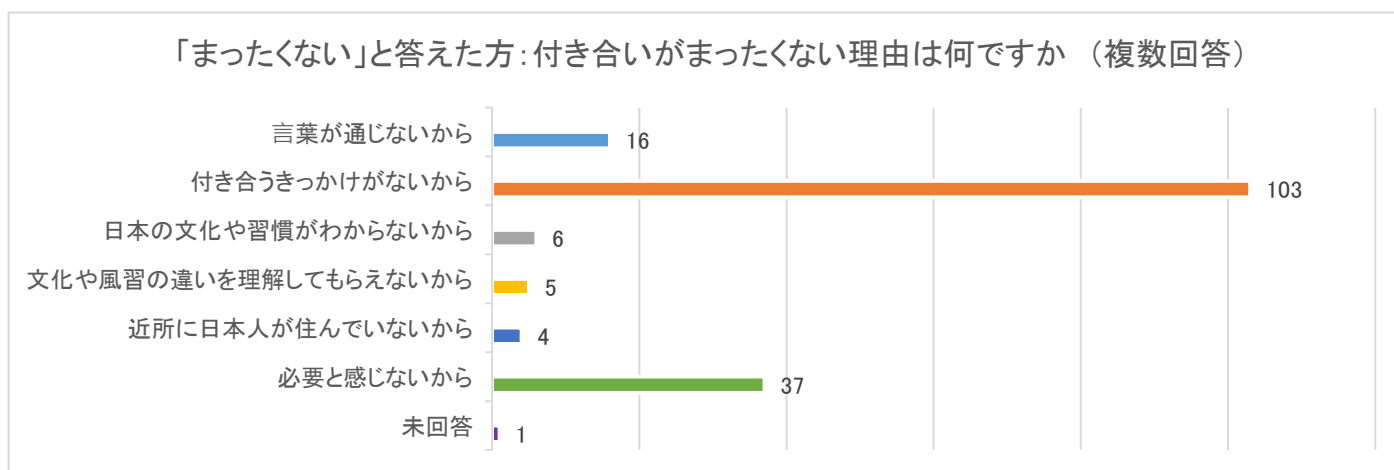


N=518

選択肢	回答数	回答率
親しく付き合っている	57	11.0%
あいさつをする程度	262	50.6%
まったくない	131	25.3%
未回答	68	13.1%

「親しく付き合っている」と回答した方は11.0%、「あいさつをする程度」と回答した方は50.6%だった。「まったくない」と回答した方は25.3%だった。

「まったくない」と答えた方：付き合いがまったくない理由は何ですか。

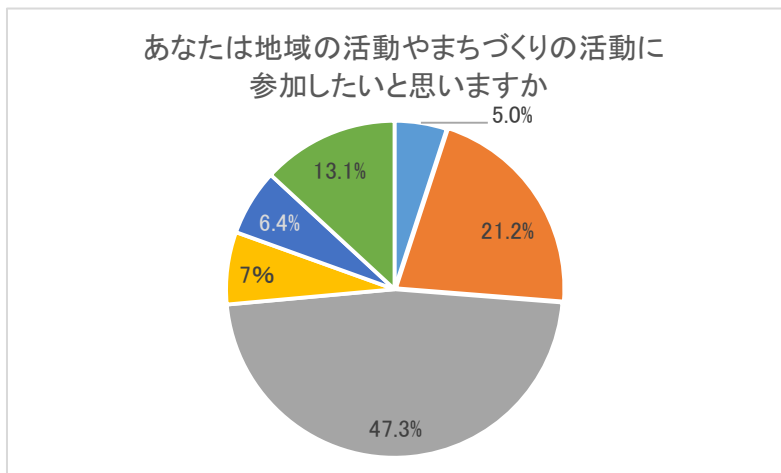


N=131

選択肢	回答数
言葉が通じないから	16
付き合いのきっかけがないから	103
日本の文化や習慣がわからないから	6
文化や風習の違いを理解してもらえないから	5
近所に日本人が住んでいないから	4
必要と感しないから	37
未回答	1

「付き合いきっかけがないから」と回答した方が1番多く、103人が回答した。「必要と感じないから」が2番目に多い37人、「言葉が通じないから」は3番目に多い16人の方が回答した。

あなたは地域の活動やまちづくりの活動に参加したいと思いますか。



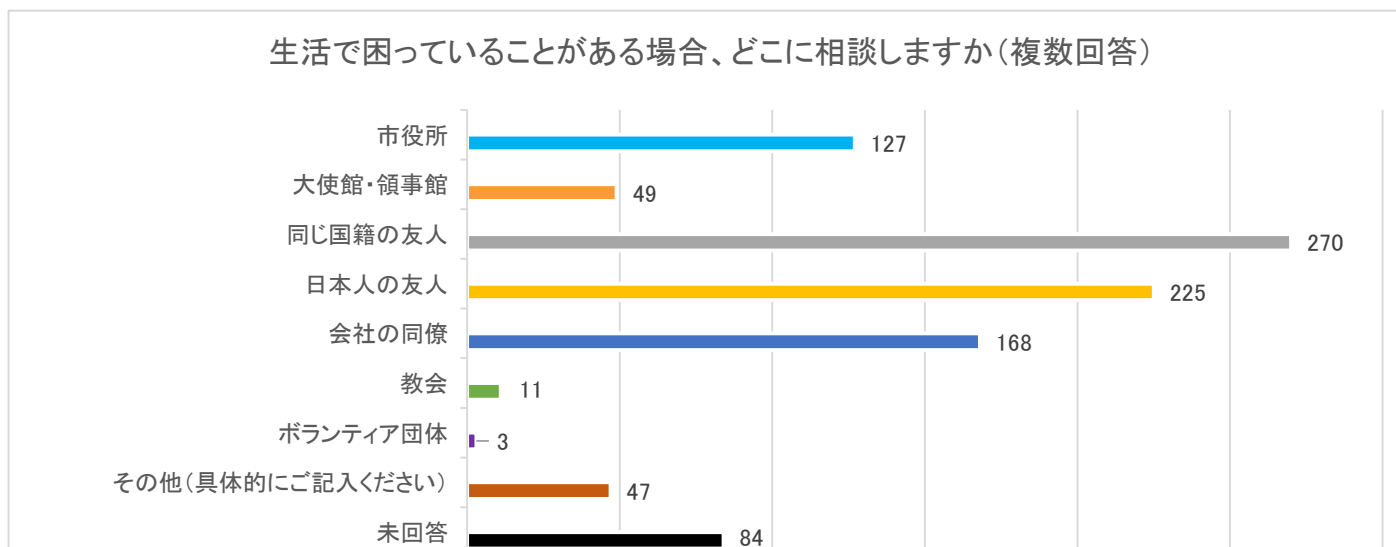
N=518

選択肢	回答数	回答率
すでに参加している	26	5.0%
ぜひ活動に参加してみたい	110	21.2%
興味がわくものであれば参加してみたい	245	47.3%
参加してみたいとは思わない	36	7.0%
わからない	33	6.4%
未回答	68	13.1%

「すでに参加している」と回答した方は5.0%だった。「ぜひ参加してみたい」と回答した方は21.2%、「興味がわくものであれば参加してみたい」と回答した方は47.3%だった。地域活動・まちづくりの活動への参加に興味・関心を持っている方が半数以上いる結果となった。一方、「参加してみたいとは思わない」と回答した方は7.0%だった。

問5【相談相手・機関】

生活で困っていることがある場合、どこに相談しますか。



N=518

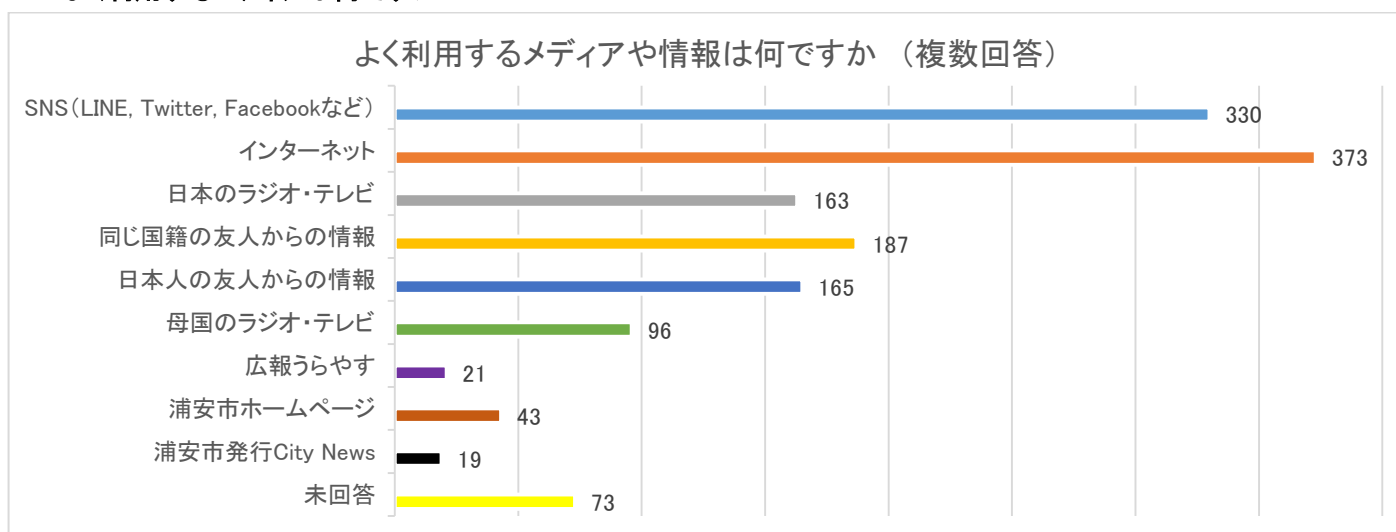
選択肢	回答数
市役所	127
大使館・領事館	49
同じ国籍の友人	270
日本人の友人	225
会社の同僚	168
教会	11
ボランティア団体	3
その他(具体的にご記入ください)	47
未回答	84

その他内訳:
家族×23、ホストファミリー×1
先生×7、学校×4
インターネット×5
自分で解決×4
困っていない×2
留学生相談支援機関×1

1番多かったのは「同じ国籍の友人」で270人の方が回答した。2番目に多かったのは「日本人の友人」で225人の方が回答した。3番目が「会社の同僚」で168人の方が回答した。「市役所」、「大使館・領事館」、「その他」、「教会」、「ボランティア団体」と続く。その他の回答としては、「家族」と回答した方が23人、「先生」7人、「学校」4人、「インターネット」が5人だった。

問6 【情報取得の手段】

よく利用するメディアは何ですか



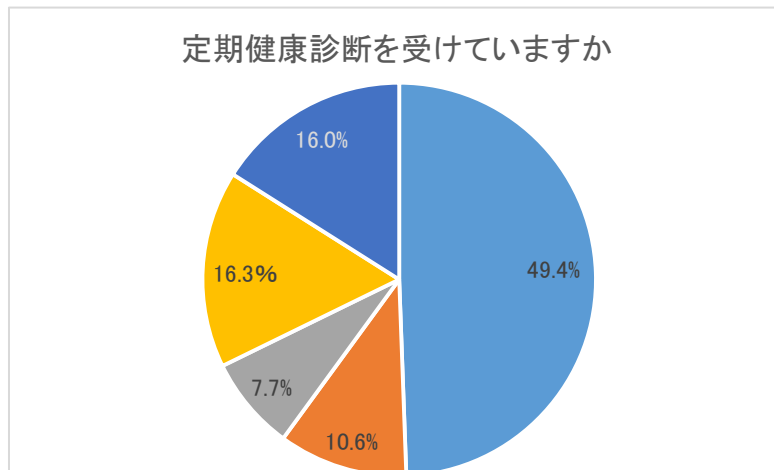
N=518

選択肢	回答数
SNS (LINE, Twitter, Facebook など)	330
インターネット	373
日本のラジオ・テレビ	163
同じ国籍の友人からの情報	187
日本人の友人からの情報	165
母国のラジオ・テレビ	96
広報うらやす	21
浦安市ホームページ	43
浦安市発行 City News	19
未回答	73

1番多かった回答は「インターネット」で373人が回答した。2番目に多かった回答は「SNS（LINE, Twitter, Facebook など）」で330人が回答した。3番目に多かったのは「同じ国籍の友人からの情報」で187人、4番目が「日本人の友人からの情報」で165人が回答した。

問7【健康診断の受診・病院での言葉の問題への対応方法】

定期健康診断を受けていますか。

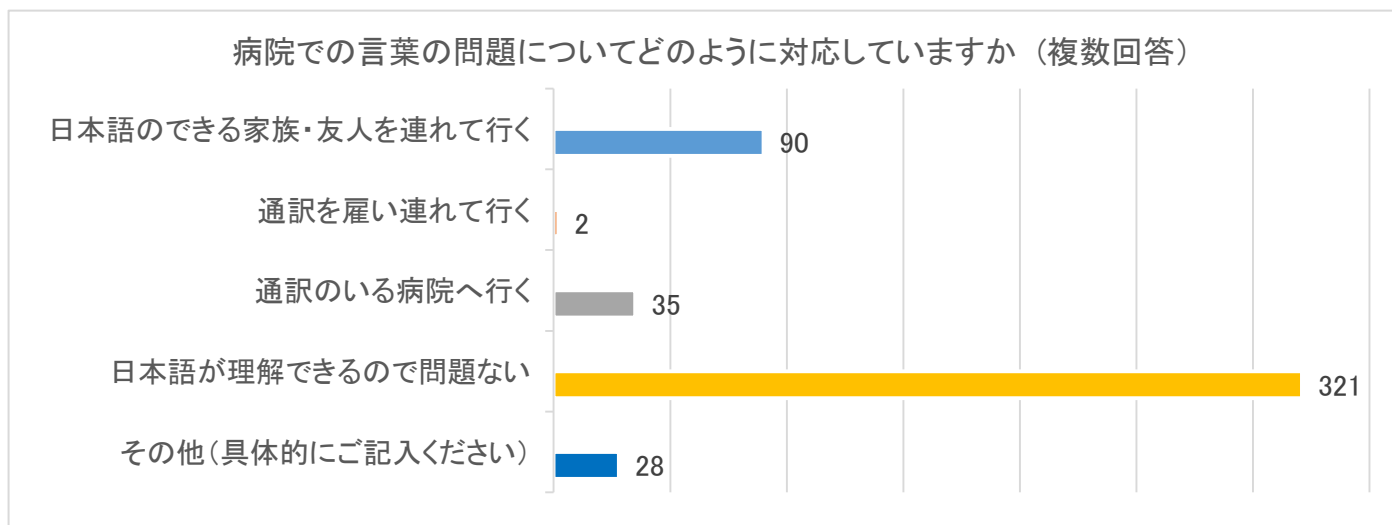


N=518

選択肢	回答数	回答率
会社の定期健康診断を受けている	256	49.4%
無料検診会を受けている	55	10.6%
個人で定期健康診断を受けている	40	7.7%
健康診断を受けていない	84	16.3%
未回答	83	16.0%

健康診断を受けていると回答したのは、合わせると約68%という結果になった。一方で、「健康診断を受けていない」と回答した方は16.3%だった。

病院での言葉の問題についてどのように対応していますか。



N=518

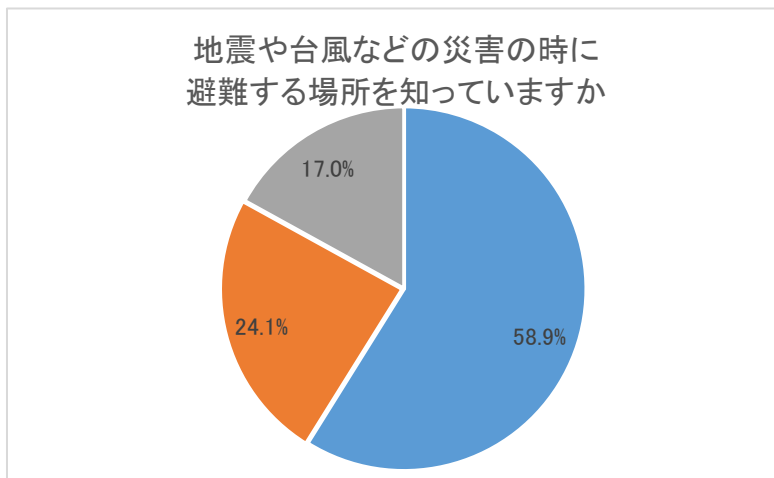
選択肢	回答数
日本語のできる家族・友人を連れて行く	90
通訳を雇い連れて行く	2
通訳のいる病院へ行く	35
日本語が理解できるので問題ない	321
その他(具体的にご記入ください)	28
未回答	88

その他内訳:
ネット、携帯で調べる×5
病院には行っていない×3
言葉がわからないので、まだ日本の病院に行ったことがない×1
日本語と英語を使って質問する×1
日本語を理解できるけど話せない×1
「TELL」に電話して英語可能な病院を探す×1
1人で行って大変×1
具体的回答なし×15

「日本語が理解できるので問題ない」と回答した方が1番多く、321人の方が回答した。2番目に多かったのは「日本語のできる家族・友人を連れて行く」で90人の方が回答した。3番目に多かったのは「通訳のいる病院へ行く」の35人だった。その他の回答としては、「ネット、携帯で調べる」と回答した方が5人、「病院には行っていない」と回答した方が3人だった。「日本語と英語を使って質問する」、「TELL(Tokyo English Life Line)に電話して英語可能な病院を探す」といった回答があった。

問8【災害への対応について】

地震や台風などの災害の時に避難する場所を知っていますか。

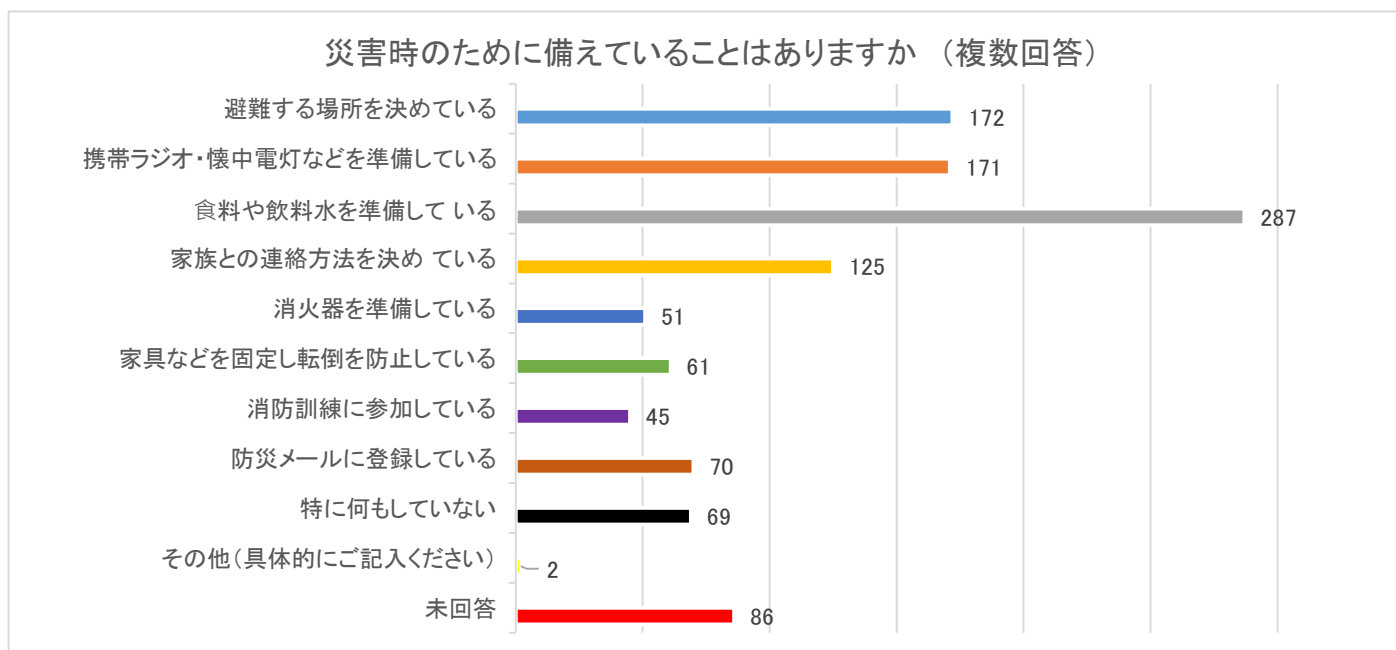


N=518

選択肢	回答数	回答率
知っている	305	58.9%
知らない	125	24.1%
未回答	88	17.0%

「知っている」と回答した方が半数以上の58.9%、「知らない」と回答した方が24.1%だった。

災害時のために備えていることはありますか。



N=518

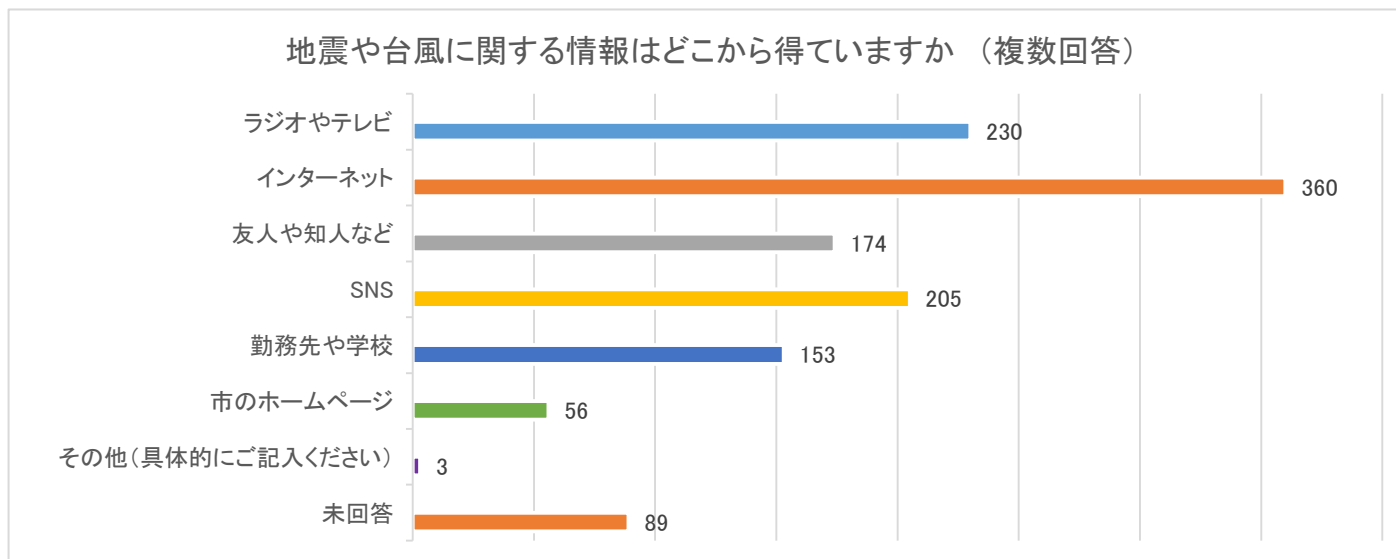
選択肢	回答数
避難する場所を決めている	172
携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している	171
食料や飲料水を準備している	287
家族との連絡方法を決めている	125
消火器を準備している	51
家具などを固定し転倒を防止している	61
消防訓練に参加している	45
防災メールに登録している	70
特に何もしていない	69
その他(具体的にご記入ください)	2
未回答	86

その他内訳:

日本人の同僚の連絡先に登録している
簡易的な避難セットを用意している

1番多かった回答は「食料や飲料水の準備をしている」で287人の方が回答した。2番目に多かったのは「避難する場所を決めている」で172人、3番目は「携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している」で171人の方が回答した。以降、「家族との連絡方法を決めている」、「防災メールに登録している」、「家具を固定し転倒を防止している」、「消火器を準備している」、「消防訓練に参加している」という結果だった。一方、「特に何もしていない」と回答した方は69人だった。

地震や台風に関する情報はどこから得ていますか。



N=518

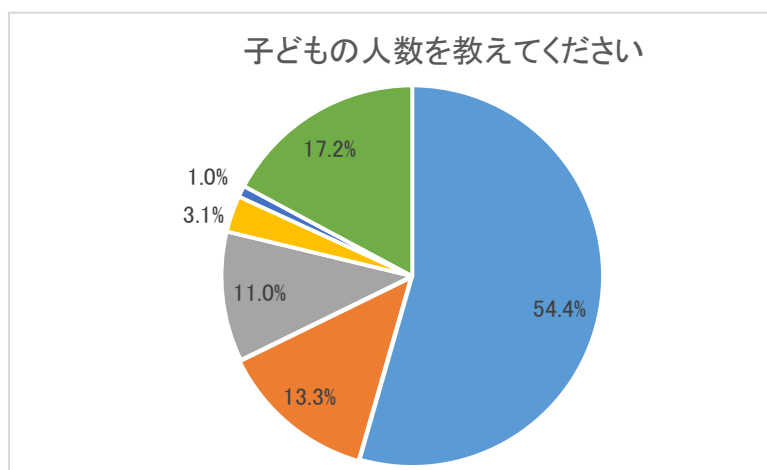
選択肢	回答数
ラジオやテレビ	230
インターネット	360
友人や知人など	174
SNS	205
勤務先や学校	153
市のホームページ	56
その他(具体的にご記入ください)	3
未回答	89

その他内訳:
UIFA からの情報
携帯電話の警報アラーム
スマートフォンのアプリ

1番多かった回答は、「インターネット」で360の方が回答した。2番目に多かったのは「ラジオやテレビ」で230の方が回答した。3番目は「SNS」の205人、4番目は「友人や知人など」の174人、5番目は「勤務先や学校」で153の方が回答した。その他回答としては、「UIFAからの情報」、「携帯電話の警告アラーム」、「スマートフォンのアプリ」だった。

問9【子どもの人数】

子どもの人数を教えてください。



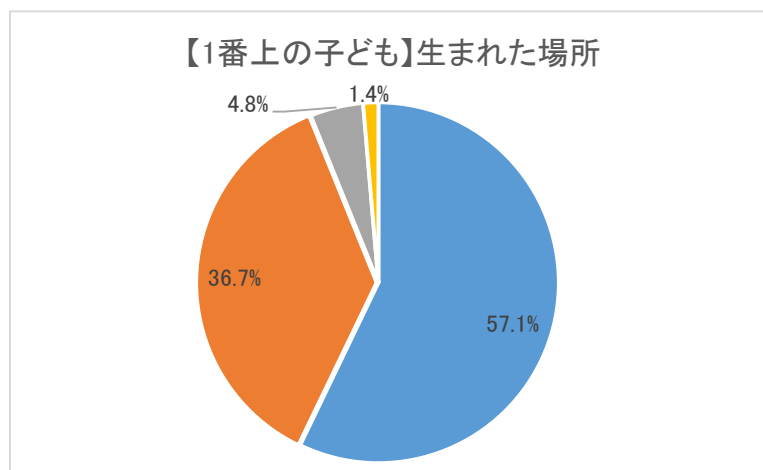
N=518

選択肢	回答数	回答率
0人	282	54.4%
1人	69	13.3%
2人	57	11.0%
3人	16	3.1%
4人以上	5	1.0%
未回答	89	17.2%

「0人」と回答した方は54.4%、「1人」が13.3%、「2人」が11.0%、「3人」が3.1%、「4人以上」は1.0%だった。

問10 【子どもの生まれた場所・入国した時の年齢】

【1番上の子ども】生まれた場所



N=147

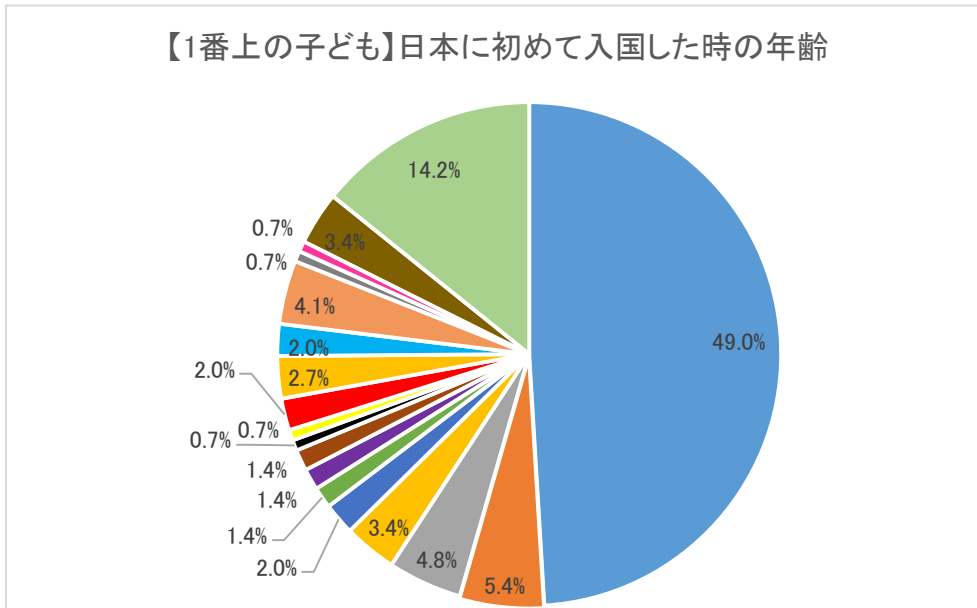
選択肢	回答数	回答率
日本	84	57.1%
母国	54	36.7%
その他(具体的にご記入ください)	7	4.8%
未回答	2	1.4%

その他内訳:

台湾×3 具体的記述なし×1
 アメリカ×1
 フィリピン×1
 インドネシア×1

「日本」と回答した方が57.1%で半数以上だった。「母国」と回答した方は36.7%だった。その他の回答では、「台湾」と回答した方が3人だった。

【1番上の子ども】日本に初めて入国した時の年齢

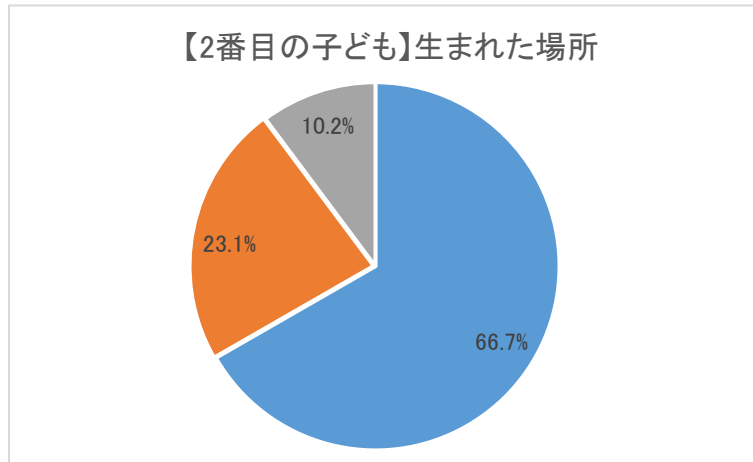


N=147

選択肢	回答数	回答率
日本生まれ	72	49.0%
0歳	8	5.4%
1歳	7	4.8%
2歳	5	3.4%
3歳	3	2.0%
4歳	2	1.4%
5歳	2	1.4%
6歳	2	1.4%
7歳	1	0.7%
8歳	1	0.7%
9歳	3	2.0%
10歳	4	2.7%
16歳	3	2.0%
17歳	6	4.1%
18歳	1	0.7%
19歳	1	0.7%
20歳以上	5	3.4%
未回答	21	14.2%

「日本生まれ」と回答した方が、半数近い49.0%だった。0歳～6歳までの「乳幼児期」の比率が高く、合わせると約20%だった。

【2番目の子ども】生まれた場所



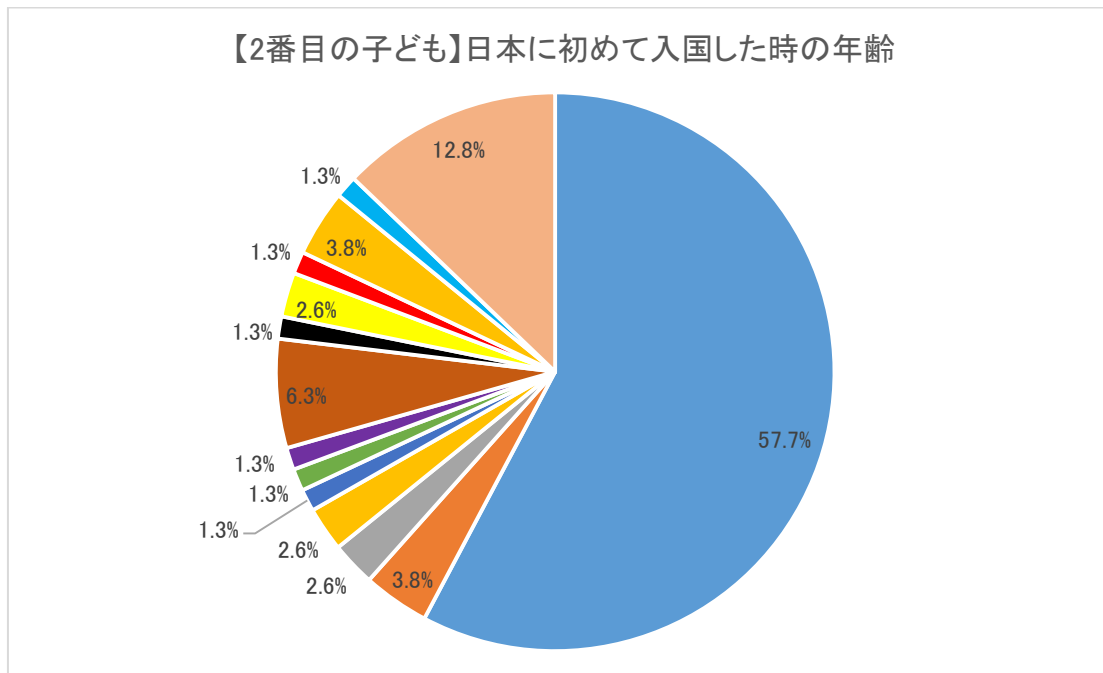
N=78

選択肢	回答数	回答率
日本	52	66.7%
母国	18	23.1%
その他(具体的にご記入ください)	8	10.2%

その他内訳:
カナダ×2
インドネシア×1
具体国名記載なし×5

「日本」と回答した方が66.7%と半数以上の方が回答した。「母国」と回答した方は23.1%だった。その他回答では、「カナダ」2人、「インドネシア」と回答した方が1人だった。

【2番目の子ども】日本に初めて入国した時の年齢



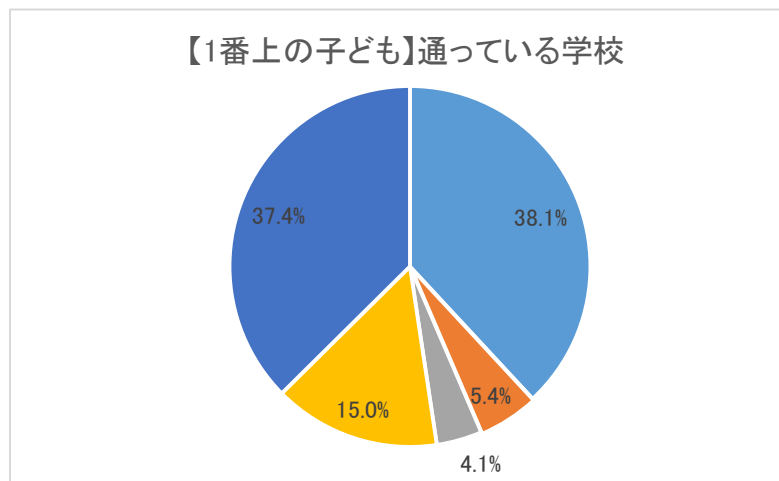
N=78

選択肢	回答数	回答率
日本生まれ	45	57.7%
0歳	3	3.8%
1歳	2	2.6%
2歳	2	2.6%
3歳	1	1.3%
5歳	1	1.3%
7歳	1	1.3%
8歳	5	6.3%
13歳	1	1.3%
15歳	2	2.6%
19歳	1	1.3%
20歳以上	3	3.8%
母国にいる	1	1.3%
未回答	10	12.8%

「日本生まれ」と回答した方が半数以上の57.7%だった。こちらも0歳～5歳までの「乳幼児期」の比率が高く、合わせると約12%だった。

問11 【学齢期の子どもの就学状況】

【1番上の子ども】通っている学校

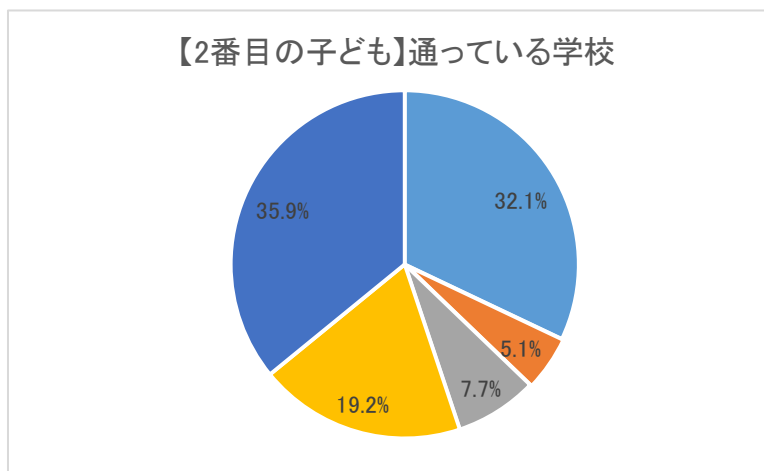


N=147

選択肢	回答数	回答率	その他内訳:
日本の小学校・中学校に通っている	56	38.1%	大学生×6
外国人学校に通っている	8	5.4%	高校生×4
学校に行っていない	6	4.1%	母国の学校に通っている×3
その他(具体的にご記入ください)	22	15.0%	乳幼児×8
未回答	55	37.4%	社会人×1

「日本の小学校・中学校に通っている」と回答した方が38.1%と1番多かった。「外国人学校に通っている」と回答した方は5.4%だった。「学校に行っていない」と回答した方は4.1%だった。

【2番目の子ども】通っている学校



N=78

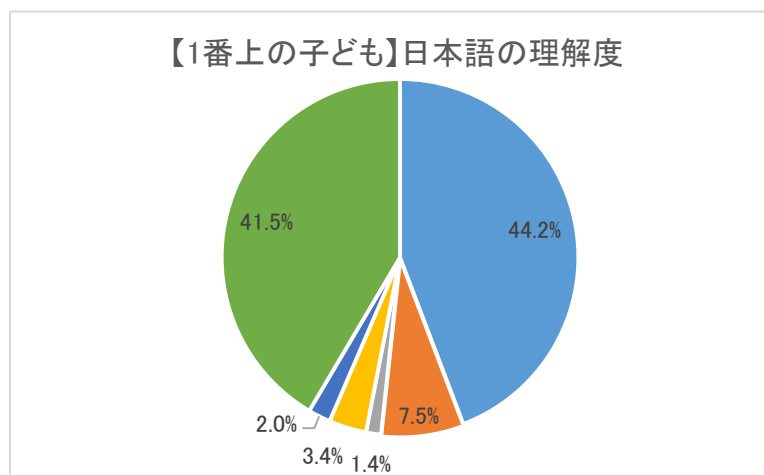
選択肢	回答数	回答率
日本の小学校・中学校に通っている	25	32.1%
外国人学校に通っている	4	5.1%
学校に行っていない	6	7.7%
その他(具体的にご記入ください)	15	19.2%
未回答	28	35.9%

その他内訳:
 大学生×1、高校生×2
 母国の学校に通っている×3
 乳幼児×6
 社会人×1
 具体的記入なし×2

「日本の小学校・中学校に通っている」と回答した方が32.1%と1番多かった。「外国人学校に通っている」と回答した方は5.1%だった。「学校に行っていない」と回答した方は7.7%だった。

問 12 【学齢期の子どもの日本語能力】

【1番上の子ども】日本語の理解度

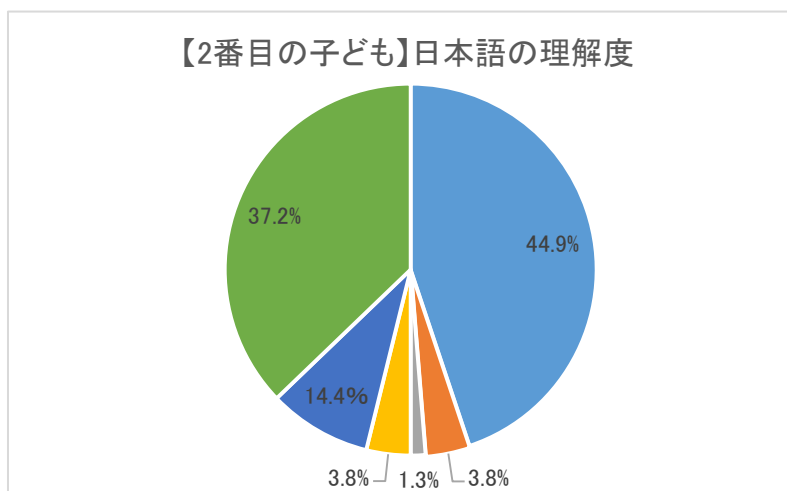


N=147

選択肢	回答数	回答率
日本語での授業を十分理解できる	65	44.2%
日本語の授業は難しいが、日常生活では困らない	11	7.5%
日常生活でときどき困ることがある	2	1.4%
ほとんどできない	5	3.4%
どれくらいできるかわからない	3	2.0%
未回答	61	41.5%

「日本語での授業を十分理解できる」と回答した方が44.2%だった。「日本語の授業は難しいが、日常生活では困らない」と回答した方は7.5%、「日常生活でときどき困ることがある」と回答した方は1.4%だった。一方、「ほとんどできない」と回答した方は3.4%だった。

【2番目の子ども】日本語の理解度



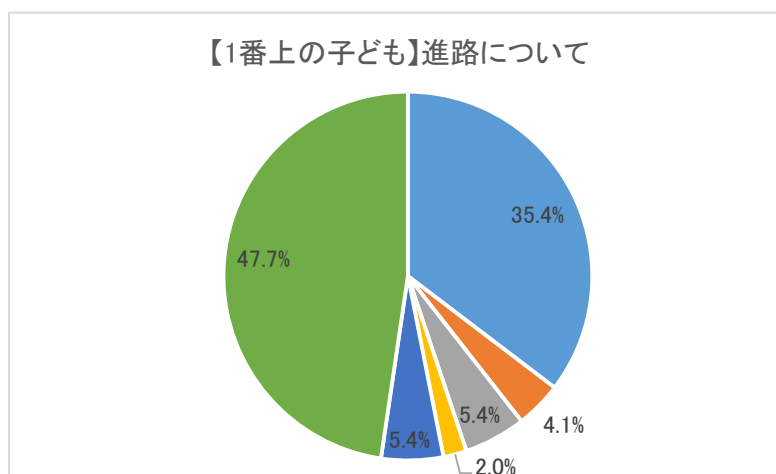
N=78

選択肢	回答数	回答率
日本語での授業を十分理解できる	35	44.9%
日本語の授業は難しいが、日常生活では困らない	3	3.8%
日常生活でときどき困ることがある	1	1.3%
ほとんどできない	3	3.8%
どれくらいできるかわからない	7	9.0%
未回答	29	37.2%

「日本語での授業を十分理解できる」と回答した方は44.9%、「日本語での授業は難しいが、日常生活では困らない」と回答した方は3.8%、「日常生活でときどき困ることがある」と回答した方は1.3%だった。「ほとんどできない」と回答した方は3.8%だった。

問 13 【学齢期の子どもの希望進路】

【1番上の子ども】進路について



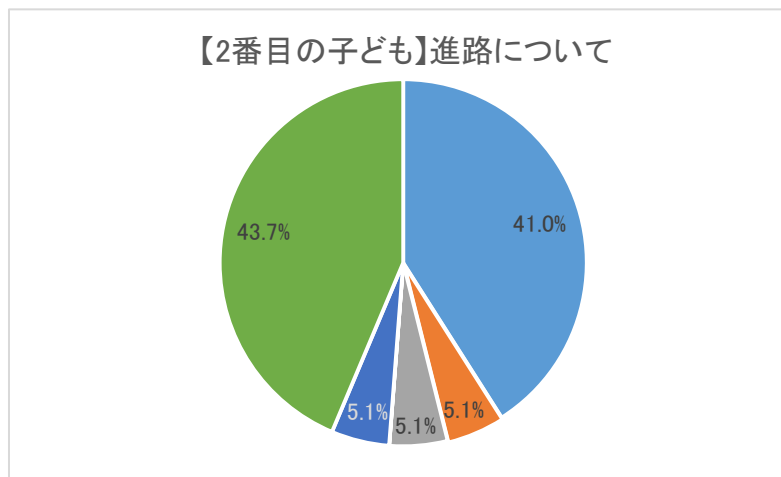
N=147

選択肢	回答数	回答率
日本の高校に進学させたい	52	35.4%
インターナショナルスクール	6	4.1%
帰国し、母国の学校に行かせたい	8	5.4%
就職させたい	3	2.0%
その他(具体的にご記入ください)	8	5.4%
未回答	70	47.7%

その他内訳:
大学生×2
専門学校×1
高校生×2
母国で就学している×2
社会人×1

「日本の高校に進学させたい」と回答した方は35.4%だった。「インターナショナルスクール」と回答した方は4.1%、「帰国し、母国の学校に行かせたい」と回答した方は5.4%だった。進学を希望すると回答したのは合わせて約45%だった。その他の回答としては、既に進学・就職しているという回答だった。

【2番目の子ども】進路について



N=78

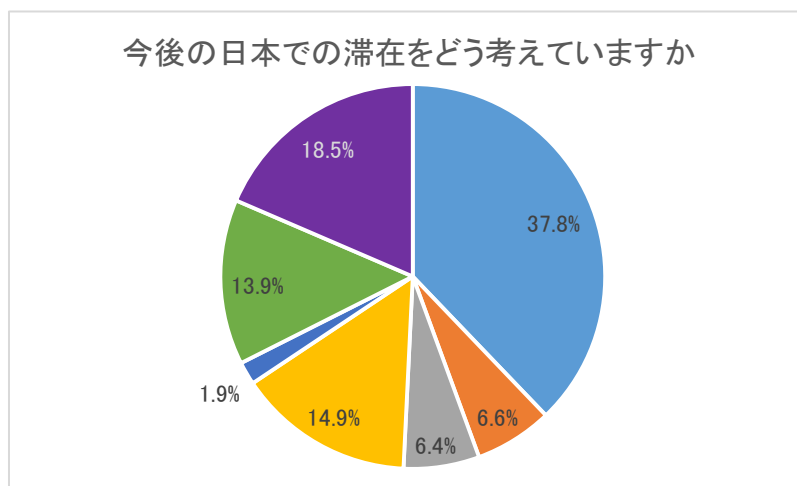
選択肢	回答数	回答率
日本の高校に進学させたい	32	41.0%
インターナショナルスクール	4	5.1%
帰国し、母国の学校に行かせたい	4	5.1%
就職させたい	0	0.0%
その他(具体的にご記入ください)	4	5.1%
未回答	34	43.7%

その他内訳:
母国で就学している×2
本人の意向次第×1
社会人×1

「日本の高校に進学させたい」と回答した方は41.0%、「インターナショナルスクール」は5.1%、「帰国し母国の学校に行かせたい」と回答した方も5.1%だった。進学を希望すると回答した方は合わせて51.2%だった。

問 14 【今後の日本・浦安市での滞在予定】

今後の日本での滞在をどう考えていますか。

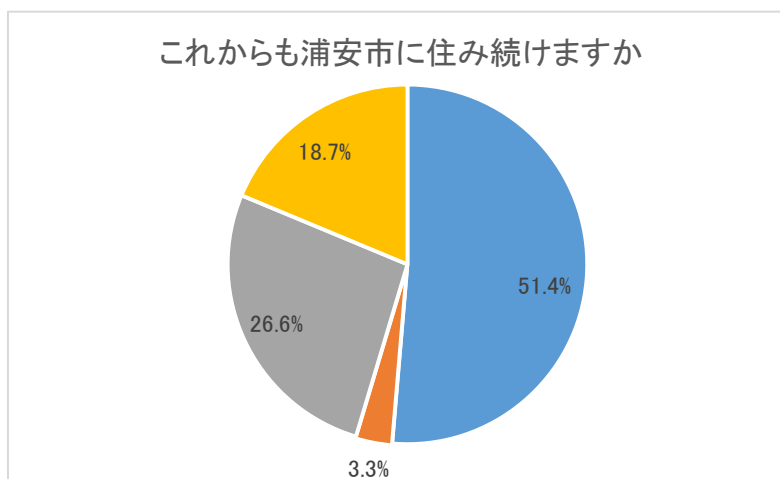


N=518

選択肢	回答数	回答率
日本に永住する予定	196	37.8%
3年以内に母国に帰国する予定	34	6.6%
10年以内に母国に帰国する予定	33	6.4%
できるだけ日本に長く滞在し、いずれは母国に帰国する予定	77	14.9%
母国・日本以外の国に行く予定	10	1.9%
わからない	72	13.9%
未回答	96	18.5%

「日本に永住する予定」と回答した方は37.8%と1番多くの方が回答した。「3年以内に母国に帰国する予定」と回答した方は6.6%、「10年以内に母国に帰国する予定」と回答した方は6.4%だった。「できるだけ日本に長く滞在し、いずれは母国に帰国する予定」と回答した方は14.9%だった。「母国・日本以外の国に行く予定」と回答した方は1.9%だった。「わからない」と回答した方は13.9%だった。

これからも浦安市に住み続けますか。



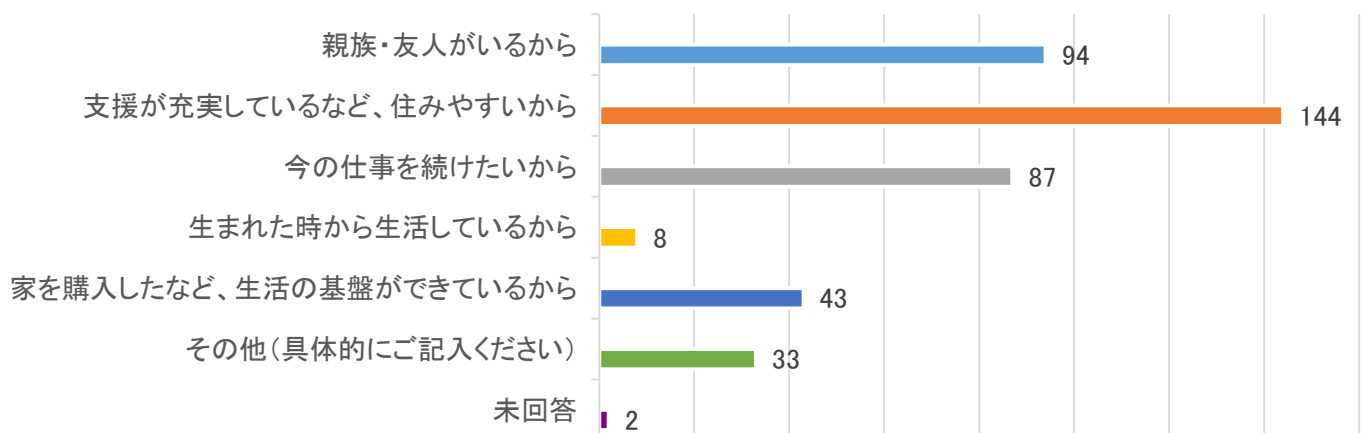
N=518

選択肢	回答数	回答率
はい	266	51.4%
いいえ	17	3.3%
わからない	138	26.6%
未回答	97	18.7%

「はい」と回答した方は半数以上の51.4%だった。「いいえ」と回答した方は3.3%、「わからない」と回答した方は26.6%だった。

「はい」と答えた方：浦安市に住み続ける理由を教えてください。

「はい」と答えた方：浦安市に住み続ける理由を教えてください（複数回答）



N=266

選択肢	回答数
親族・友人がいるから	94
支援が充実しているなど、住みやすいから	144
今の仕事を続けたいから	87
生まれた時から生活しているから	8
家を購入したなど、生活の基盤ができているから	43
その他(具体的にご記入ください)	33
未回答	2

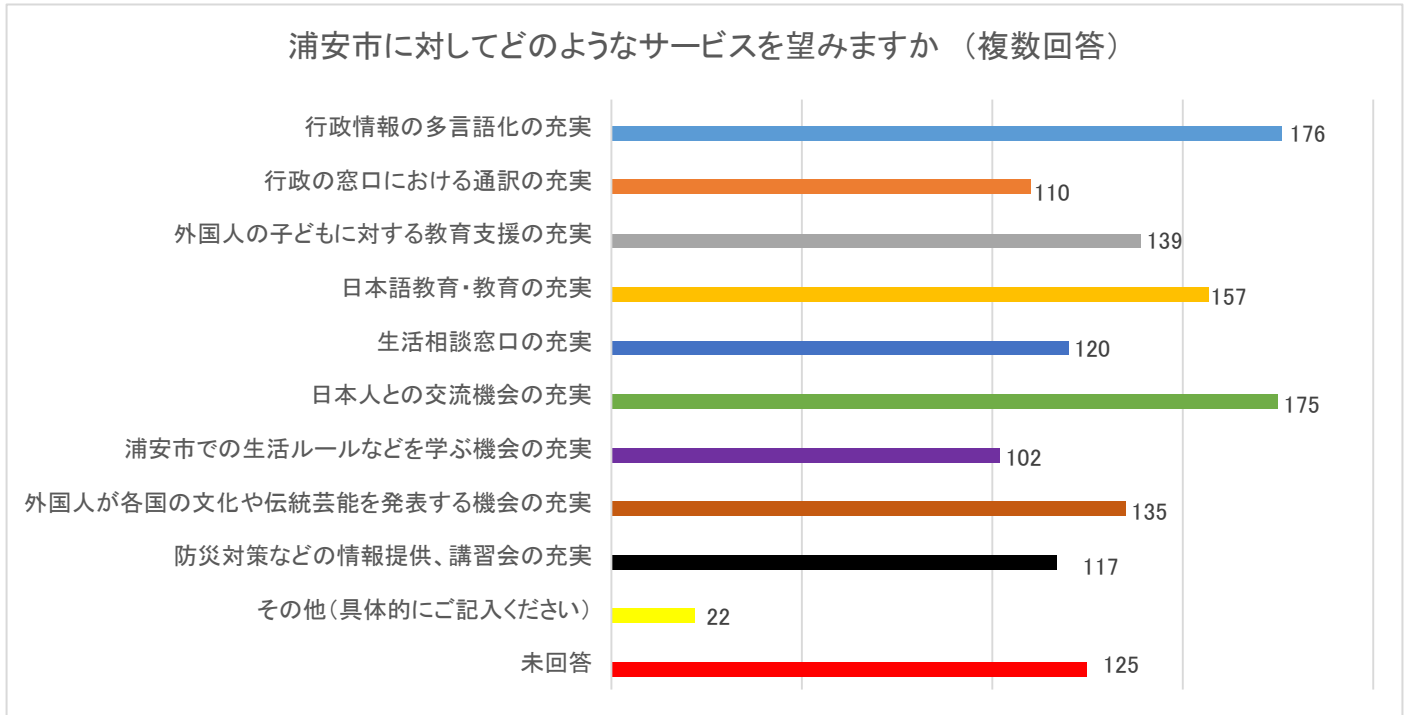
その他内訳:

- 利便性(交通、職場・学校に近い、アミューズメント施設に近い)×22
- 長期在住による愛着×2
- 安全×2
- 環境がよい×2
- 勤務先の社宅があるため×2
- 行政サービスがよい×2
- 市内で自営業をしているため×1

1番多かった回答は、「支援が充実しているなど、住みやすいから」で144人が回答した。2番目に多かったのは「親族・友人がいるから」で94人が回答した。3番目に多かったのは「今の仕事を続けたいから」で87人が回答した。その他意見としては、通勤・通学や職場・学校に近いといった「利便性が高い」と回答した方が22人だった。その他、「安全」、「環境がよい」、「行政サービスがよい」といった回答もあった。

問 15 【行政サービスについて】

浦安市に対してどのようなサービスを望みますか。



N=518

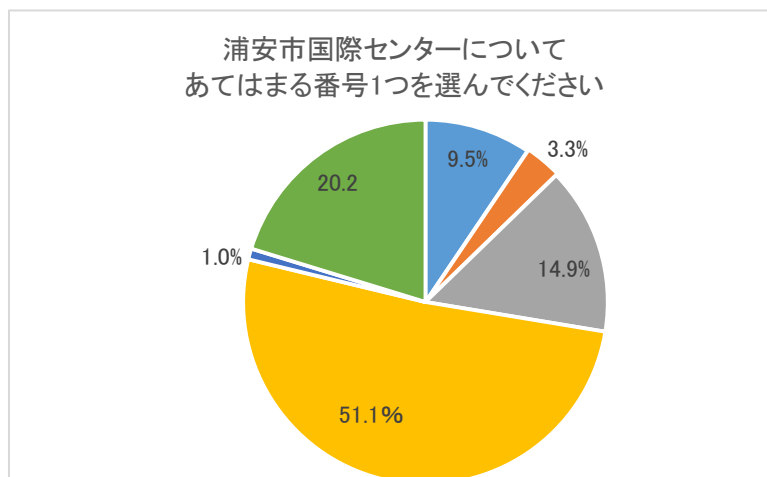
選択肢	回答数
行政情報の多言語化の充実	176
行政の窓口における通訳の充実	110
外国人の子どもに対する教育支援の充実	139
日本語教育・教育の充実	157
生活相談窓口の充実	120
日本人との交流機会の充実	175
浦安市での生活ルールなどを学ぶ機会の充実	102
外国人が各国の文化や伝統芸能を発表する機会の充実	135
防災対策などの情報提供、講習会の充実	117
その他(具体的にご記入ください)	22
未回答	125

その他の主な内訳:(全て×1)

- 窓口業務の延長、休日営業
- 住民票などの web 上での発行
- 市役所サービスのアプリの開発
- 初級～中級の日本語教室
- 日本語学習支援教室の情報発信の強化
- 各種市内イベントの情報提供
- 市窓口では対応できない時の他機関へのつなぎ
- 無料の日本語教室
- 繁体字の表記
- 福祉の充実
- 広報うらやすの英語訳標記
- 各種提出書類の多言語標記
- 外国語対応の病院の充実
- 投票権等の権利

1 番多かった回答は「行政情報の多言語化の充実」で 176 人が回答した。2 番目に多かった回答は「日本人との交流の機会の充実」で 175 人が回答した。3 番目に多かったのは「日本語教育・教育の充実」で 157 人が回答した。以降、多かった順に「外国人の子どもに対する教育支援の充実」、「外国人が各国の文化や伝統芸能を発表する機会の充実」、「生活相談窓口の充実」、「防災対策などの情報提供、講習会の充実」、「行政の窓口における通訳の充実」、「浦安市での生活ルールなどを学ぶ機会の充実」と続く。その他意見としては、それぞれ 1 件だったが、「市役所営業時間の拡大」、「web 上での各種書類の発行・受取り」等があった。

浦安市国際センターについてあてはまる番号1つを選んでください。



N=518

選択肢	回答数	回答率
1～2回、行ったことがある	49	9.5%
3回以上、行ったことがある	17	3.3%
浦安市国際センターは知っているが、行ったことはない	77	14.9%
浦安市国際センターについては、何も知らない	265	51.1%
その他(具体的にご記入ください)	5	1.0%
未回答	105	20.2%

その他内訳:

ボランティア活動を行っていた
 I want to go again.
 (もう一度行きたい)
 I go in center 3 times by week.
 (1週間に3回行きます)
 I'm going there twice a week.
 (1週間に2回行きます)
 特にありません

「1～2回、行ったことがある」と回答した方は9.5%だった。「3回以上、行ったことがある」と回答した方は3.3%、「浦安市国際センターは知っているが、行ったことはない」と回答した方は14.9%だった。一方、「浦安市国際センターについては、何も知らない」と回答した方は51.1%で、在住外国人の方への認知度がまだ低い結果だった。

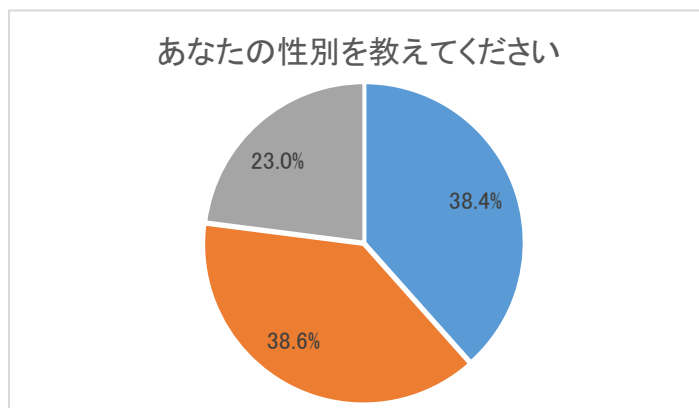
その他、浦安市に対してどのようなサービスを望みますか。(自由記述)

- 市役所のサービスについて×5
- 日本語学習教室について×3
- 情報の多言語化について×3
- その他×11

「市役所のサービスについて」5人の方から回答があった。内容としては、「営業時間の延長や休日の希望」や「証明書等のweb上での発行を希望する」といった意見があった。「日本語学習教室」については3人の方から回答があり、「無料の日本語教室を提供してほしい」という意見があった。「情報の多言語化」についても3人の方から回答があり、「税金、健康保険などの書類については、多言語で表記することが重要だ」という意見があった。その他の内容としては、「外国語対応の病院の充実」等の意見があった。

問 16 【最後にあなた自身のことについてお尋ねします】

あなたの性別を教えてください。

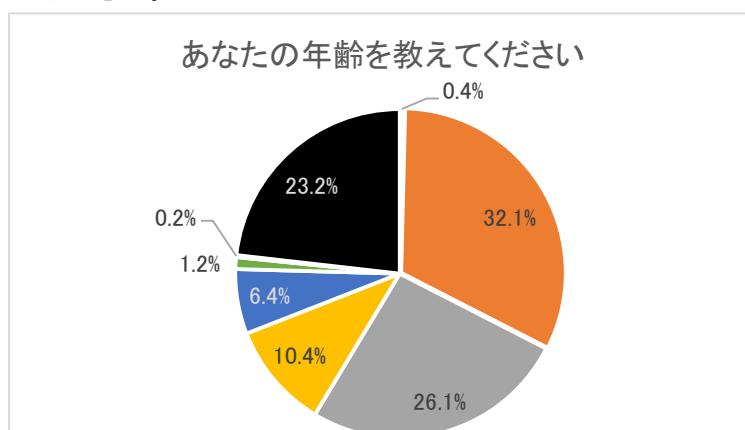


N=518

選択肢	回答数	回答率
男性	199	38.4%
女性	200	38.6%
未回答	119	23.0%

男性が 38.4%、女性が 38.6%と、未回答を除くとほぼ同じ比率だった。

あなたの年齢を教えてください。

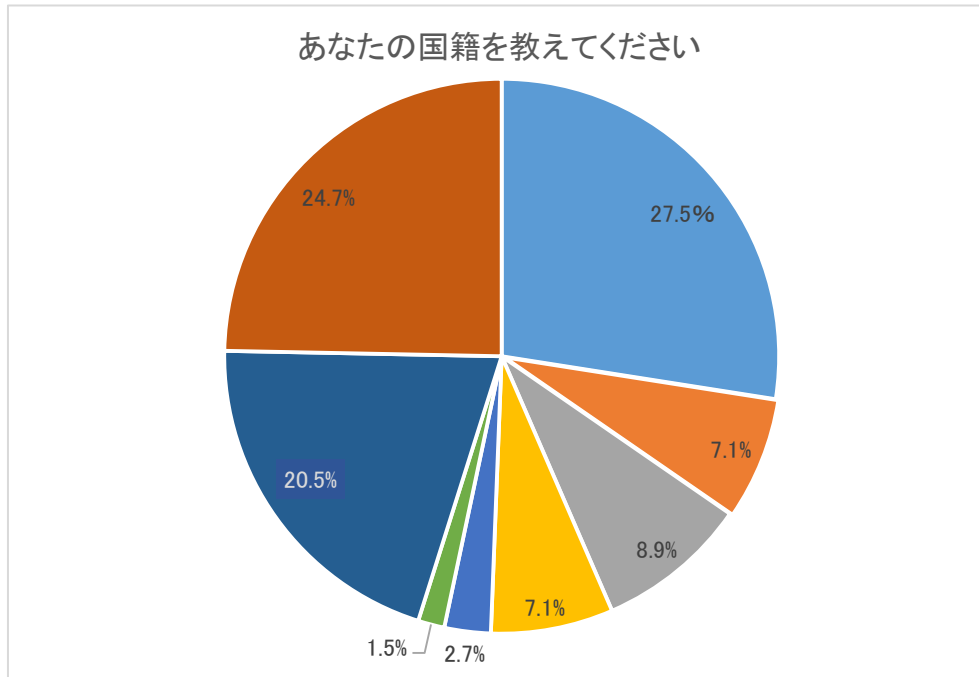


N=518

選択肢	回答数	回答率
10歳代	2	0.4%
20歳代	167	32.1%
30歳代	135	26.1%
40歳代	54	10.4%
50歳代	33	6.4%
60歳代	6	1.2%
70歳代	1	0.2%
80歳以上	0	0.0%
未回答	120	23.2%

1番多く回答したのは「20歳代」で 32.1%だった。2番目に多かった回答は「30歳代」で 26.1%だった。以降、「40歳代」、「50歳代」、「60歳代」、「10歳代」、「80歳以上」という結果だった。

あなたの国籍を教えてください。



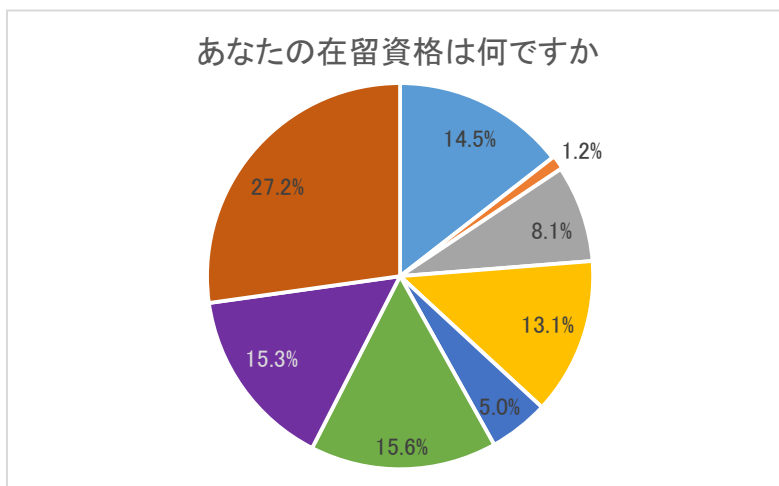
N=518

選択肢	回答数	回答率
中国	142	27.5%
韓国・朝鮮	37	7.1%
フィリピン	46	8.9%
ベトナム	37	7.1%
アメリカ	14	2.7%
ネパール	8	1.5%
その他 (具体的にご記入ください)	106	20.5%
未回答	128	24.7%

その他内訳:	
台湾 × 24	イタリア × 1
インドネシア × 9	ドイツ × 1
ミャンマー × 5	ベルギー × 1
タイ × 5	スウェーデン × 1
英国 × 4	スペイン × 1
フランス × 4	ウズベキスタン × 1
ロシア × 4	アゼルバイジャン × 1
モンゴル × 4	カメルーン × 1
カナダ × 4	モザンビーク × 1
イラン × 3	ナイジェリア × 1
パキスタン × 3	カンボジア × 1
スリランカ × 3	シンガポール × 1
マレーシア × 3	バングラデシュ × 1
ブラジル × 3	パラオ共和国 × 1
オーストラリア × 3	パプアニューギニア × 1
香港 × 3	アルゼンチン × 1
メキシコ × 2	ペルー × 1
インド × 2	パラグアイ × 1

1番多かった回答は「中国」で27.5%だった。2番目に多かった回答は「フィリピン」で8.9%だった。「韓国・朝鮮」及び「ベトナム」が同じ回答数で7.1%だった。以降「アメリカ」、「ネパール」という結果だった。その他の回答としては、「台湾」が1番多く24人が回答した。2番目に「インドネシア」の9人、「ミャンマー」と「タイ」が5人で同じ回答数だった。

あなたの在留資格は何ですか。



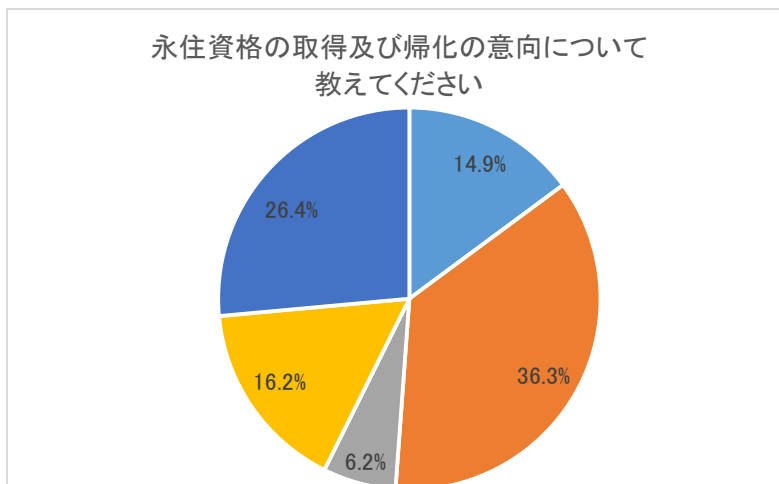
N=518

選択肢	回答数	回答率
永住者	75	14.5%
特別永住者	6	1.2%
日本人の配偶者	42	8.1%
定住者	68	13.1%
技能実習生	26	5.0%
留学生	81	15.6%
その他(具体的にご記入ください)	79	15.3%
未回答	141	27.2%

その他内訳:(ビザの種類別)
高度専門職ビザ×7
就業ビザ×66
一般ビザ×3
特定ビザ×1
難民認定申請中×2

「永住者」と回答した方は14.5%だった。「特別永住者」は1.2%、「日本人の配偶者」は8.1%、「定住者」は13.1%だった。「技能実習生」と回答した方は5.0%、「留学生」は15.6%という結果だった。その他の回答の内訳は、「高度専門職ビザ」が7人、「就業ビザ」が66人、「一般ビザ」が3人、「特定ビザ」が1人だった。また、「難民認定申請中」と回答した方が2人だった。

永住資格の取得及び帰化の意向について教えてください。

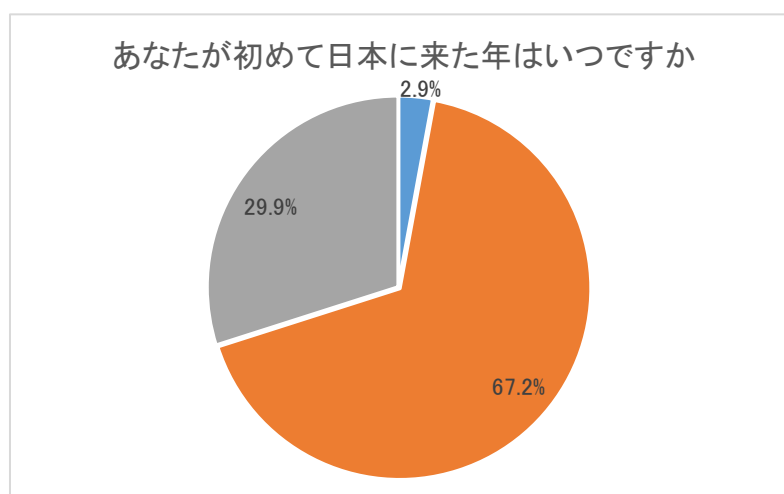


N=518

選択肢	回答数	回答率
永住資格を持っている	77	14.9%
永住資格の取得を考えている	188	36.3%
帰化を考えている	32	6.2%
永住資格の取得や帰化は考えていない	84	16.2%
未回答	137	26.4%

「永住資格を持っている」と回答した方は14.9%だった。「永住資格の取得を考えている」と回答した方は36.3%、「帰化を考えている」と回答した方は6.2%だった。一方「永住資格の取得や帰化は考えていない」と回答した方は16.2%だった。

あなたが初めて日本に来た年はいつですか。



N=518

選択肢	回答数	回答率
日本生まれ	15	2.9%
初めて来日した年を記入してください	348	67.2%
未回答	155	29.9%

初めて来日した年の内訳

年	人数	年	人数	年	人数	年	人数
1984	1	1996	4	2006	10	2016	30
1986	1	1997	3	2007	5	2017	38
1987	2	1998	2	2008	8	2018	34
1988	4	1999	4	2009	13	2019	19
1989	2	2000	5	2010	13		
1991	5	2001	7	2011	21		
1992	6	2002	10	2012	18		
1993	2	2003	3	2013	13		
1994	2	2004	1	2014	20		
1995	5	2005	11	2015	26		

「2017年」に来日した方が1番多く、その前後「2016年」、「2018年」も多い結果となった。

浦安市の市制全般について、ご意見・ご要望がありましたら自由ご記入ください。(自由記述)

- 育児・教育について×9
- 日本語学習教室について×6
- 情報の多言語化について×6
- 税金について×3
- 医療について×3
- 市に対する意見・要望について×27
- 外国人への差別・偏見について×2
- 社会活動への参加について×4
- その他×14

- ・「育児・教育について」では、複数人から「認定保育園が少なく、入ることができない」という意見があった。
- ・「日本語学習教室について」では、「日本語学習教室の設置・増加」を希望する意見があった。
- ・「情報の多言語化について」では、「市役所内での外国語によるサポート」や「税金等の書類等の翻訳」を希望する意見があった。
- ・「税金について」では、「国民健康保険が高い」、「留学生の税金や保険料の減額」を求める意見があった。
- ・「医療について」では、「外国語対応の病院の増加」を望む意見があった。
- ・「市に対する意見・要望について」は 1 番ご意見が多く集まった。「ネットを活用したサービスの提供」や「浦安市国際センターへの wifi の設置」、「外国人の市制への参加」等の要望があった。その他、「英字の広報を読むことができて助かっている」、「住みやすい」等があった。
- ・「外国人への差別・偏見について」では、「近隣の日本人がコミュニケーションを避ける」、「部屋を借りようとしたところ、外国人のため断られた」という意見があった。
- ・「社会活動への参加について」では、「日本人と付き合いきっかけ」を求める意見が多かった。
- ・「その他」としては、「ハラルの普及」、「LGBT、マイノリティへの対応」という意見があった。

【全体を通じた考察】

- ・日本語については、回答した方(全体の 26.6%)の 8 割程度の方が会話・読み・書きがある程度できるという結果だった。
- ・「現在、日本語を学習している」方は回答者の半数以上で、「日本で生活していくために必要なため」、「仕事で必要なため」という理由が多かった。一方、「現在、日本語を学習していない」と回答した方の多くは、機会さえあれば学習したいという意見が 7 割以上だった。自由記述でも、日本語学習教室の設置を求める意見が複数あった。
- ・住まいについては、民間のアパート・マンションに住んでいる方が半数以上だった。自治会に「加入している」と回答したのは全体の 10%未満で「わからない」、「未回答」を含めると 90%以上が「加入していない」と回答している。
- ・近隣の日本人との付き合いについては、「あいさつをする程度」が半数以上だった一方、付き合いが「まったくない」と回答した方は約 25%だった。付き合いのない理由としては、「付き合いきっかけがない」という意見が多かった。地域活動・まちづくりへの参加については、「参加してみたい」という意見が多かった。自由記述でも、きっかけづくりのための交流イベント等の開催について求める意見があった。
- ・生活で困っている時の相談相手としては、「同じ国籍の友人」が最も多く、次いで「日本人の友人」が多かった。
- ・情報取得の手段としては、「インターネット」や「SNS」が多く、パソコンやスマートフォンを活用した情報取得をしているという回答が多かった。
- ・定期健康診断を受けている方は回答者の半数以上だった。病院での言葉の問題への対応については、「日本語を理解できるので問題ない」と回答した方が最も多かったが、自由記述では、外国語対応の病院の充実を求める

意見が複数あった。

- ・地震等災害時の避難場所について知っている方が 60%近く、日頃から災害に対し意識していることが伺えた。災害時に備えていることは、「食料や飲料水を準備している」と回答した方が最も多かった。災害に関する情報の入手先としては、「インターネット」が 1 番多かった。
- ・子どもに関する内容では、1 番目の子どもも、2 番目ともに「日本生まれ」という方が半数以上だった。入国した時の年齢で多かったのは、0 歳～5 歳までの乳幼児期だった。
- ・子どもの就学状況は、日本の学校に通っている子どもが最も多かった。子どもの日本語能力では、未回答者を除けば 70%以上の方が「日本語の授業を十分理解できる」と回答した。
- ・子どもの希望進路としては、未回答者を除けば「日本の高校に進学させたい」という意見が 70%近かった。
- ・今後の日本での滞在予定については、「永住する予定」という回答が 1 番多かった。浦安市に住み続けるかどうかについては、住み続けるという回答が約 5 割だった。その理由として最も多かったのは「支援が充実しているなど、住みやすいから」だった。
- ・浦安市に求めるサービスとしては、「行政情報の多言語化の充実」、「日本人との交流の機会の充実」が多く、次いで「日本語教育・教育の充実」という結果だった。浦安市国際センターについては、約 2 割は知っていたが、約 5 割は「何も知らない」と回答した。
- ・性別は、男女比がほぼ同率だった。年齢分布は 20 代、30 代、40 代の順に多かった。国籍は、「中国」が最も多かった。以降、2 番目に「フィリピン」、「ベトナム」及び「韓国・朝鮮」が同数で 3 番目に多かった。
- ・在留資格については、「留学生」が最も多く、2 番目に「永住者」、3 番目に「定住者」という順だった。永住資格の取得については、「取得を考えている」が最も多かった。
- ・初めて日本に来た年については、「2017 年」が最も多かった。

2.3 企業向け調査結果

浦安市多文化共生に関する意識調査結果（企業向け）

実施日時：令和元年10月28日（月）～12月7日（土）

実施手法：浦安鉄鋼団地協同組合を通じた郵便による質問票の送付及びFAX・メールでの回答受付

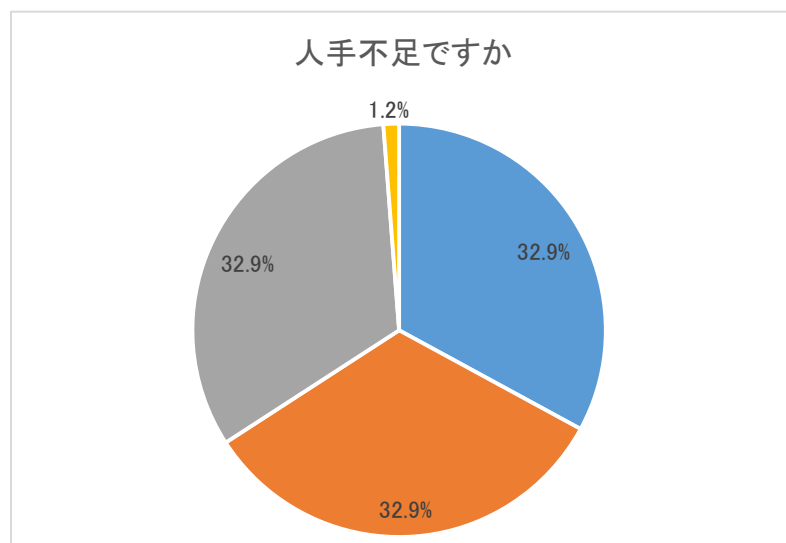
送付数：211社（浦安鉄鋼団地協同組合登録企業）

回答数：82社

回答率：38.9%

問1 【人手不足】

現在人手不足の状況ですか。



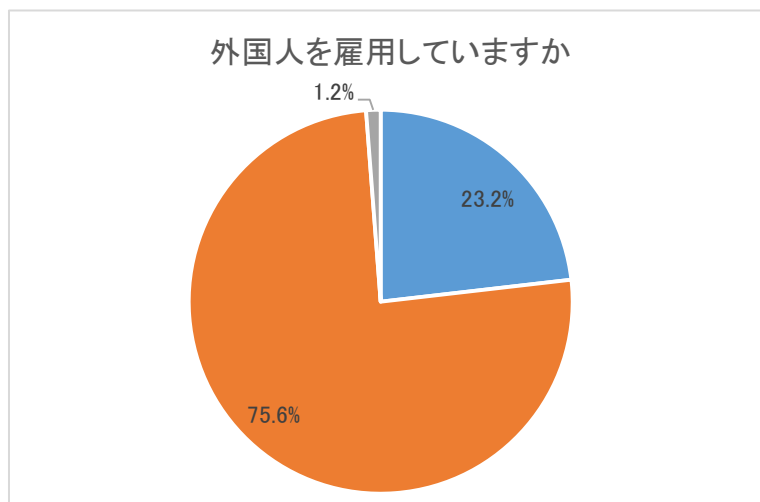
N=82

	選択肢	回答数	回答率
■	はい	27	32.9%
■	いいえ	27	32.9%
■	どちらともいえない	27	32.9%
■	未回答	1	1.2%

「はい」と回答した企業、「いいえ」と回答した企業、「どちらとも言えない」と回答した企業がそれぞれ同数の27社、回答の32.9%となった。

問2 【外国人の雇用】

外国人の雇用をしていますか。



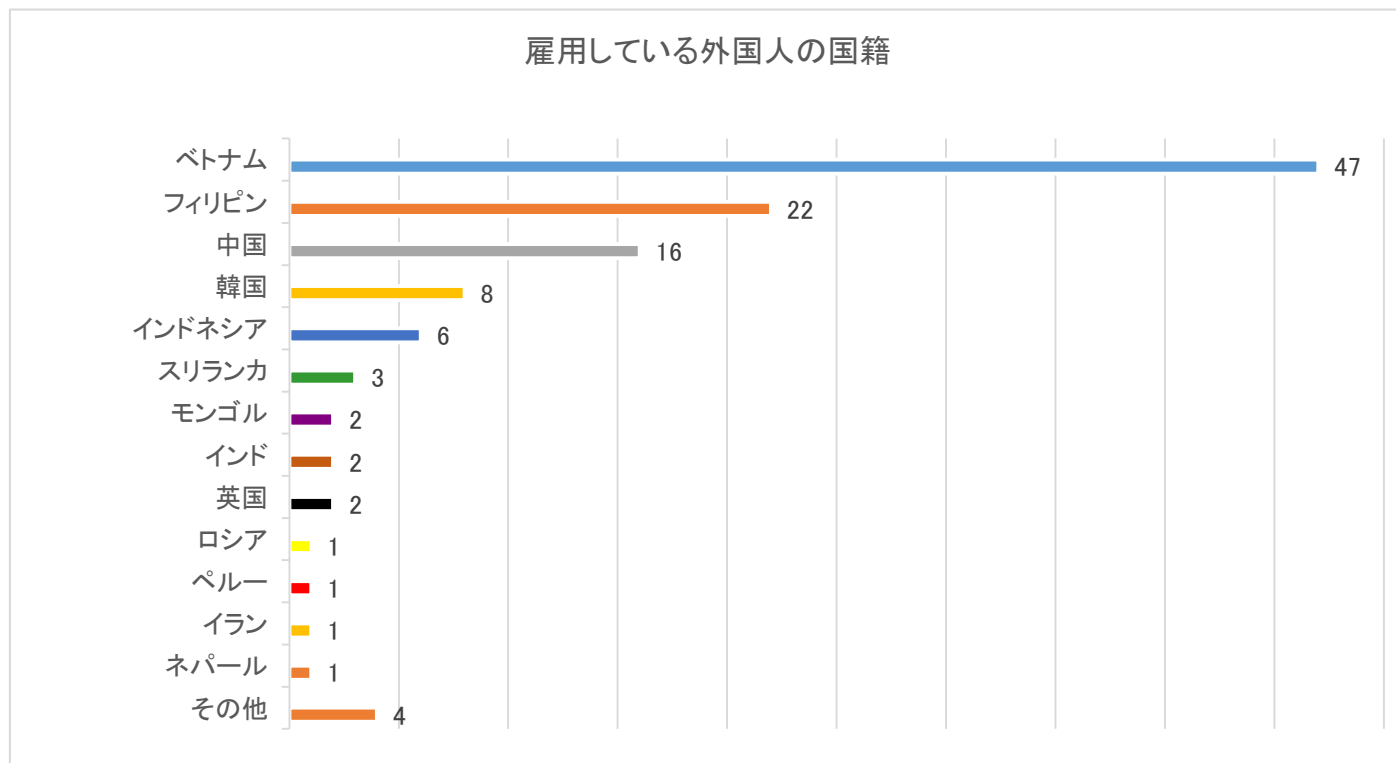
N=82

選択肢	回答数	回答率
①はい	19	23.2%
②いいえ	62	75.6%
未回答	1	1.2%

「はい」と回答した企業は19社で23.2%、「いいえ」と回答した企業は62社で75.6%、外国人を雇用していない企業が多い結果となった。

問3 【雇用の内訳】

問2で「①はい」を選択された方にお聞きします。雇用している国籍及び人数を多い順で教えてください。



国籍別	在籍人数
ベトナム	47
フィリピン	22
中国	16
韓国	8
インドネシア	6
スリランカ	3
モンゴル	2
インド	2
英国	2
ロシア	1
ペルー	1
イラン	1
ネパール	1
その他	4

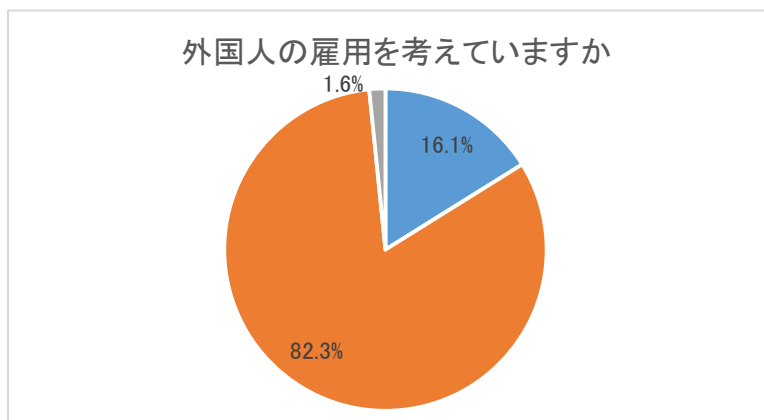
その他内訳:

具体的記述なし×4

問 2 で外国人を雇用していると回答した企業 19 社に、外国人従業員の国籍別人数について聞いたところ、1 番多いのがベトナムの 47 人、2 位がフィリピンの 22 人、3 位が中国で 16 人、次に韓国、インドネシアと続いた。

問4【雇用の検討】

問2で「②いいえ」を選択された方にお聞きします。外国人の雇用を検討していますか。



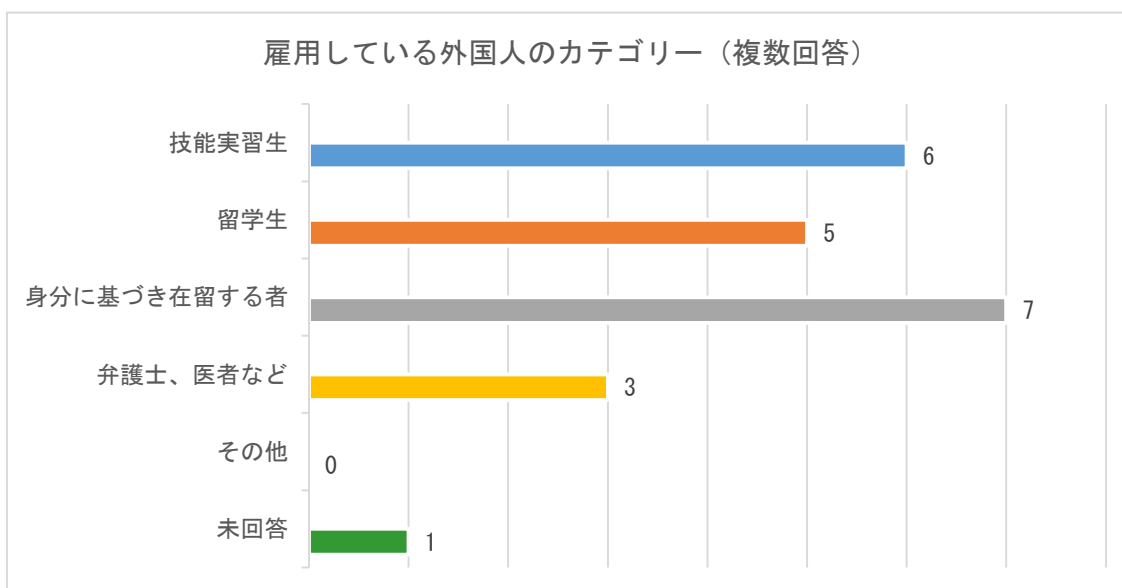
N=62

選択肢	回答数	回答率
検討している	10	16.1%
検討していない	51	82.3%
未回答	1	1.6%

現在、外国人を雇用していないと回答した企業62社の内、51社が「雇用を検討していない」と回答した。その理由としては、「人出不足ではない」といった意見が17件と一番多かった。その次に多かった意見は、「言葉・コミュニケーション」で、「コミュニケーションに不安がある」といった意見や、「細かい指示を理解してもらえず、品質に影響するから」という意見があった。以降、「受入体制が整っていない」、「指導する余裕がない」が同数で続く。少数意見としては、「(雇用)方法がわからない」といった意見があった。

問5【外国人のカテゴリー】

雇用している外国人のカテゴリーをお答えください。



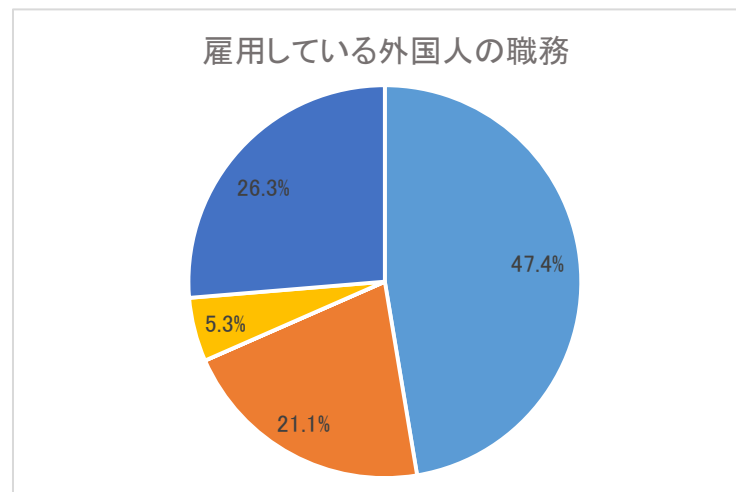
N=19

選択肢	回答数
技能実習生	6
留学生	5
身分に基づき在留する者	7
弁護士、医者など	3
その他	0
未回答	1

外国人を雇用していると回答した19社に、雇用している外国人の在留資格について質問した。1番多かったのは、「身分に基づき在留する者」（定住者・永住者・日本人の配偶者等）の7件、2番目に多かったのは「技能実習生」、3番目が「留学生」、4番目に「弁護士、医者等」のいわゆる「専門的・技術的分野」の在留資格を持っている外国人という結果となった。

問6【外国人の職務】

雇用している外国人の職務について、最も多いものをお答えください。



N=19

選択肢	回答数	回答率
生産・労務	9	47.4%
専門・技術	4	21.1%
販売	0	0.0%
その他	1	5.3%
未回答	5	26.3%

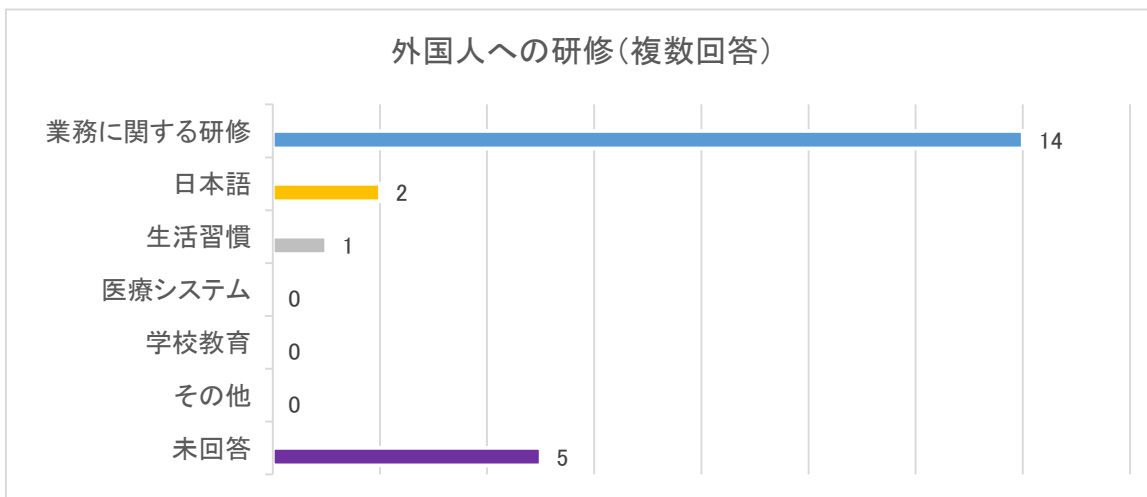
その他内訳:

総合職 × 1

外国人を雇用していると回答した19社に、雇用している外国人の職務について質問した。1番多かったのは、「生産・労務」、続いて「専門・技術」となった。

問7【外国人への研修】

外国人労働者にどのような研修を行っていますか。



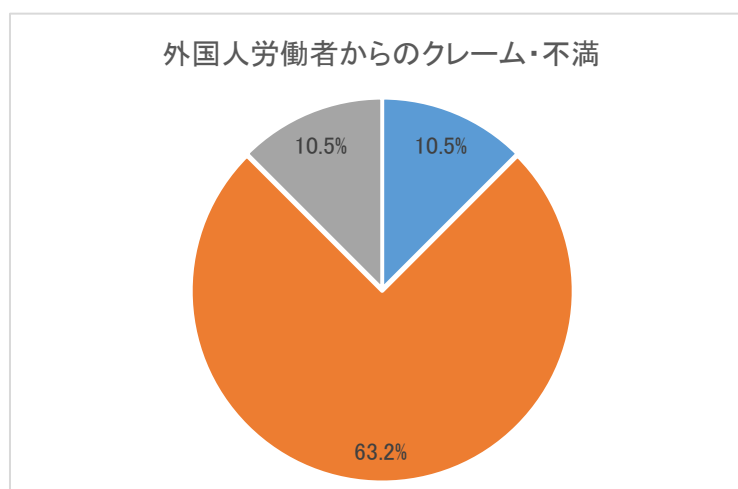
N=19

選択肢	回答数
業務に関する研修	14
日本語	2
生活習慣	1
医療システム	0
学校教育	0
その他	0
未回答	5

外国人を雇用していると回答した19社に、外国人への研修について質問した。1番多かったのは、「業務に関する研修」で14件、以降、「日本語」、「生活習慣」の順となった。日本語や日本での生活に関する研修、その他医療や学校教育の研修については、企業側であまり実施されていないということが結果から考察できる。

問8【クレームや不満】

これまで外国人労働者からクレームや不満を受けたこと、聞きしたことはありますか。



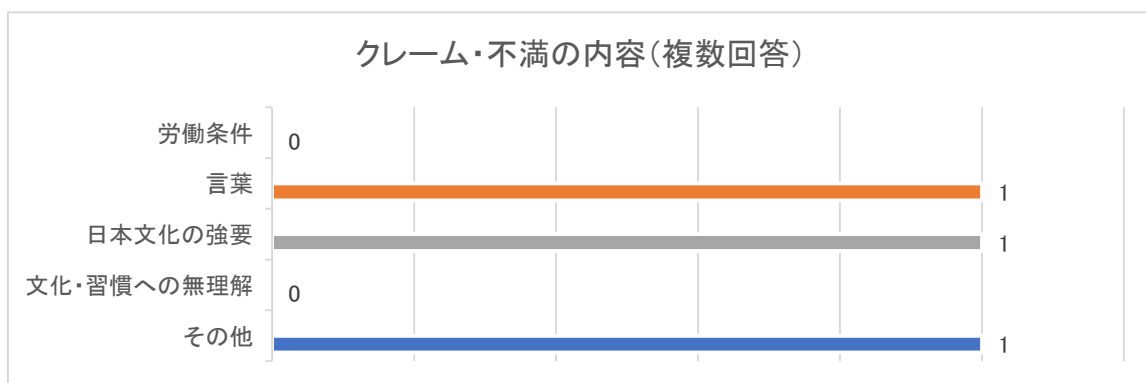
N=19

選択肢	回答数	回答率
はい	2	10.5%
いいえ	12	63.2%
未回答	5	10.5%

外国人を雇用していると回答した 19 社に、外国人からのクレームについて質問した。クレームがあったと回答したのは 2 社のみだった。

問 9 【クレームの内容】

どのような内容のクレーム・不満でしたか。



N=2

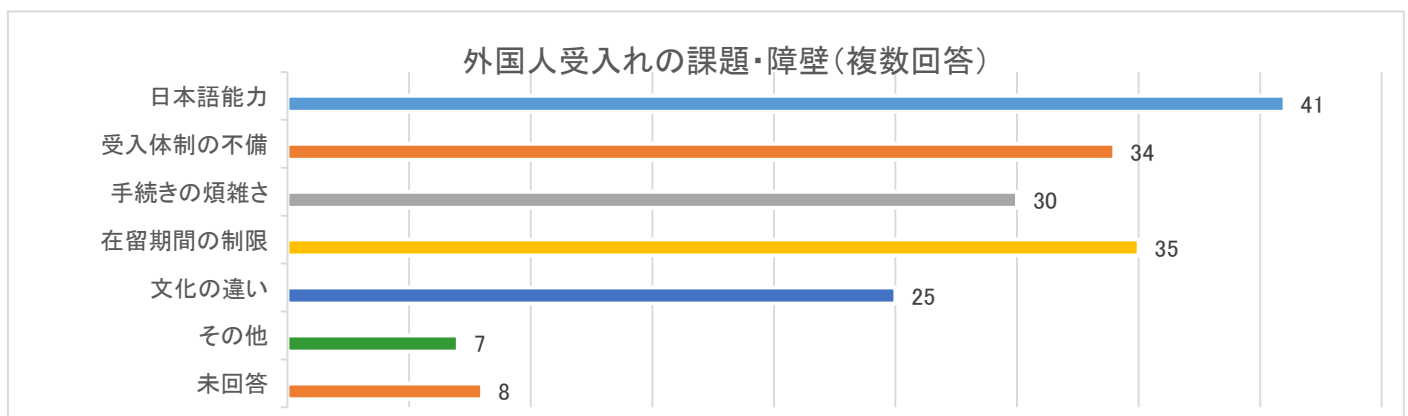
選択肢	回答数
労働条件	0
言葉	1
日本文化の強要	1
文化・習慣への無理解	0
その他	1

その他内訳:
肉体的にきつい×1

問 8 でクレームがあったと回答した 2 社にクレームの内容について質問したところ、「言葉」、「日本文化の強要」、その他として「肉体的にきつい」といったクレームがあったと回答があった。

問 10 【外国人雇用の課題】

すでに外国人労働者を雇用している企業は雇用にあたって課題に感じていること、雇用をしていない企業・検討している企業は障壁となっていることについてお答えください。



N=82

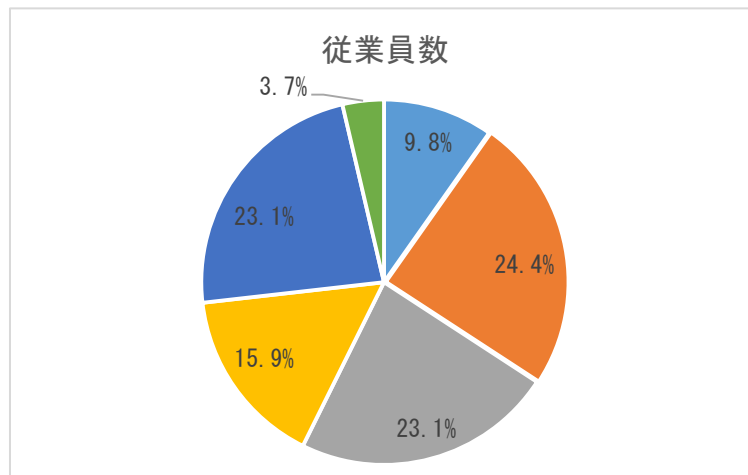
選択肢	回答数
日本語能力	41
受入体制の不備	34
手続きの煩雑さ	30
在留期間の制限	35
文化の違い	25
その他	7
未回答	8

その他内訳:(全て×1)
既存従業員の意識
人手が足りている
運転などの技術
外国人を活かせる職種がない
犯罪行為や詐欺に巻き込まれる
特に問題は感じていない
当該施設では雇用していない

外国人受入の課題・障壁について質問したところ、1番多かったのは「日本語能力」だった。2番目が「在留資格の制限」、3番目が「受入体制の不備」、以降は「手続きの煩雑さ」、「文化の違い」となった。

問 11 【従業員数】

あなたの会社の従業員数を教えてください。



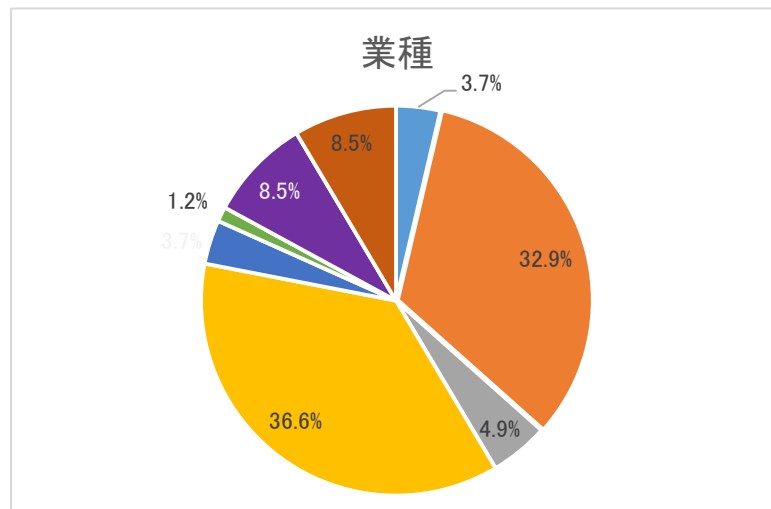
N=82

選択肢	回答数	回答率
5人以下	8	9.8%
6人~20人以下	20	24.4%
21人~50人以下	19	23.1%
51人~100人以下	13	15.9%
100人以上	19	23.1%
未回答	3	3.7%

今回、回答していただいた企業の従業員数について質問した。1番多かったのは、「6~20人以下」の企業で20社だった。2番目に多かったのは「21~50人以下」、「100人以上」が同じ19社だった。

問 12 【業種】

あなたの会社の業種は、次のどれに当たりますか。



N=82

選択肢	回答数	回答率
建設	3	3.7%
製造	27	32.9%
輸送・通信	4	4.9%
卸売	30	36.6%
小売り	3	3.7%
サービス	1	1.2%
その他	7	8.5%
未回答	7	8.5%

その他内訳:

倉庫業×3
 金属加工×2
 不動産業×1
 建機レンタル×1

1番多い業種は、卸売業で30社、その次が製造業で27社だった。

【全体を通じた考察】

- ・外国人を雇用している企業は回答のあった82社中、19社だった。外国人労働者の国籍別内訳では、ベトナム出身者の人数が第2位のフィリピン出身者と比べても2倍以上となった。浦安市内の外国人口比率から見ても、近年、ベトナムの出身者は急増していること、また、入管法改正により、日本全体でもベトナムからの労働者が増えているという実態にも関係があると考えられる。
- ・業側の外国人受入の障壁として1番多かったのは、「日本語能力」だった。しかし、企業で日本語の研修を実施していると回答したのは19社中2社だった。また、企業側が外国人労働者に実施する研修は業務に関する内容という回答が多く、生活や医療、学校教育等の支援などは少ないという結果だった。今後、言葉や生活等についての支援が必要になると考えられる。

2.4 市民団体向け調査結果

浦安市多文化共生に関する意識調査結果（市民団体向け）

実施日時：令和元年11月12日（火）～11月30日（土）

実施手法：浦安市国際センター登録団体への調査票の送付及び回収（直接・メール添付）

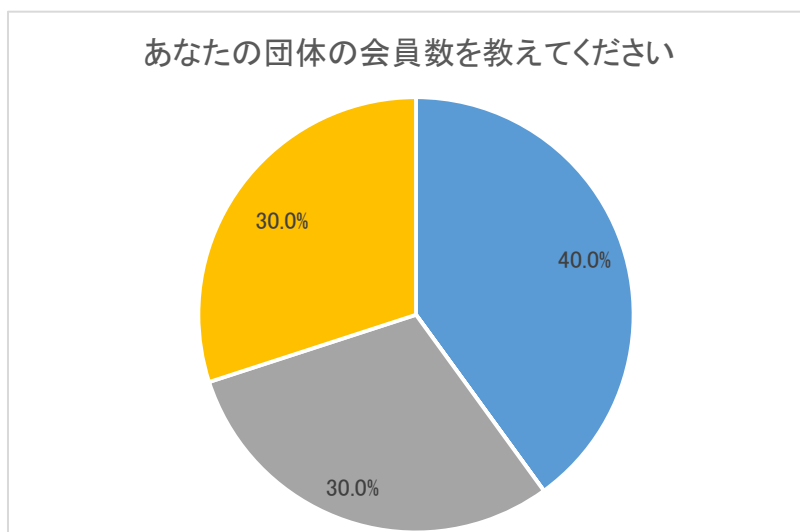
送付数：10団体

回答数：10団体

回答率：100%

問1【団体の人数】

あなたの団体の会員数を教えてください。



N=10

選択肢	回答数	回答率
20人未満	4	40.0%
50人未満	0	0.0%
100人未満	3	30.0%
100人以上	3	30.0%

「20人未満」が4団体、「100人未満」が3団体、「100人以上」が3団体という結果だった。

問2【活動の歴史】

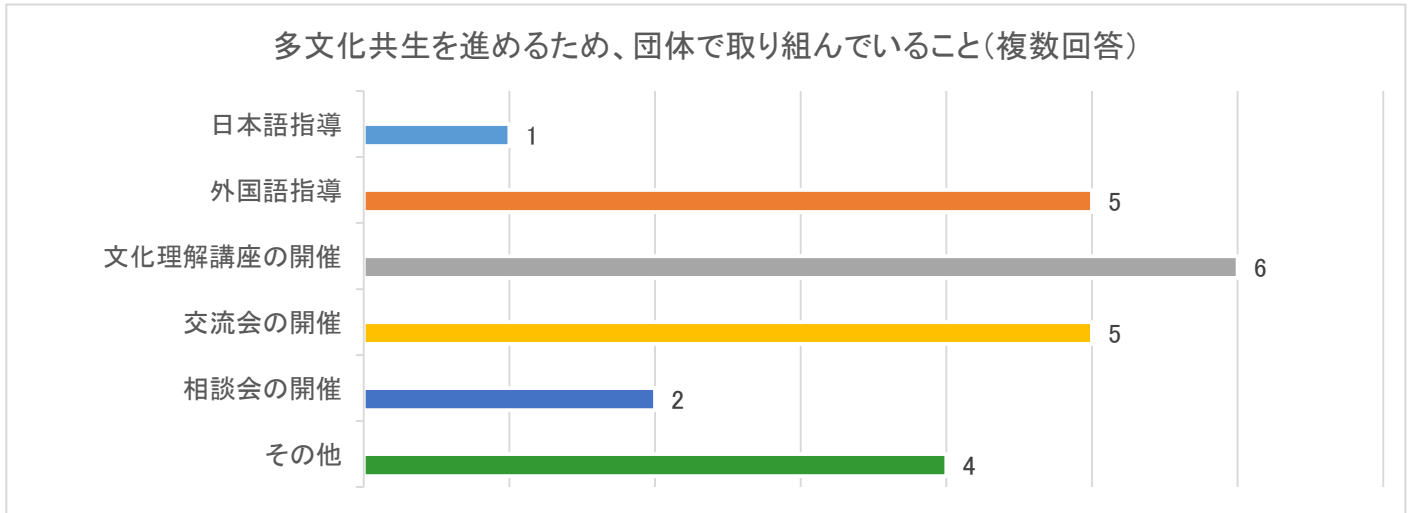
あなたの団体はいつから活動をしていますか。

N=10

年	団体数	年	団体数
1977	1	2003	1
1986	1	2010	1
1987	1	2011	1
1990	1	2015	2
2001	1		

問3【団体の活動】

多文化共生を進めるため、あなたの団体ではどのようなことに取り組んでいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



N=10

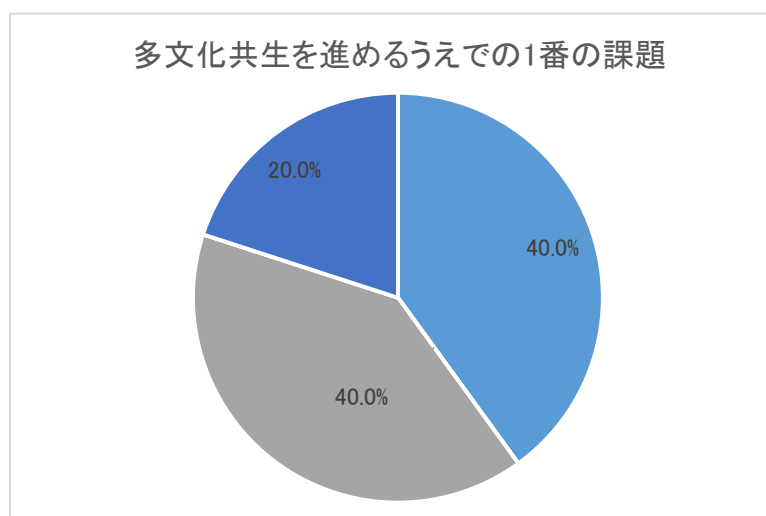
選択肢	回答数
日本語指導	1
外国語指導	5
文化理解講座の開催	6
交流会の開催	5
相談会の開催	2
その他	4

その他意見(記述式)
○JICA シニアボランティア経験者による学校への出前講座、公開講座の開催等
○各種国際交流・協力イベントへの参加、グローバルキッチン の開催、JICA 海外協力隊応募相談会の開催等
○浦安市と交流のあるオランダの国花チューリップの育成活動
○SDGs 促進のための各種イベントの開催

「文化理解講座の開催」が最も多く6団体が回答した。「外国語指導」及び「交流会の開催」は同数で2番目に多く、5団体が回答した。以降、「相談会の開催」、「日本語指導」の順だった。その他の内容としては、JICAのボランティアに関する講演会やイベントへの参加や、SDGsの促進のためのイベントという意見等があった。

問4【多文化共生の課題】

多文化共生を進めるうえで、一番の課題として認識していることは何ですか。一つだけ○を付けてください。



N=10

選択肢	回答数	回答率
日本人の外国・外国人についての意識	4	40.0%
外国人の日本・日本人についての意識	0	0.0%
言葉の問題	4	40.0%
行政の施策が不十分	0	0.0%
その他	2	20.0%

その他内訳:
○日本人、外国人どちらかというわけではなく、相互の理解を深めるための取り組みが必要
○日本人・外国人がお互いを認め合うこと

「日本人の外国・外国人についての意識」及び「言葉の問題」という意見が同じ回答数で最も多かった。「その他」意見としては、日本人・外国人がお互いを認め合うことが必要だという意見があった。

問5【行政の施策】

多文化共生を進めるため、行政の施策としてどのようなものを希望しますか。

- ・日本語学習の支援・充実×3
- ・在住外国人と日本人住民が交流できる場の定期的な開催と定期的な取り組み×2
- ・例えば、役所に外国人課を設置し、外国人に対する諸手続きや住宅や教育等相談を一元的に行い併せてそのサービスの向上を図り、外国人が住みやすい街づくりをめざす。
- ・大型テーマパークや明海大学との連携により、住みやすい街・国際 CITY 浦安を PR し、外国人の定住を促進する。
- ・語学教育機関等の誘致等により、国際人材育成と環境を整備し、若い世代に対し、子育て・教育分野に優れた街を PR し、その呼び込みを図る。
- ・日本人には言語(外国語、特に英語)学習の場を増やす。
 - ①英会話教室の増加(安い費用で受講できるもの)。
 - ②自主的な学習活動の場(打ち合せコーナーや会議室の開放)。
- ・日本人と外国人が一緒になって地域生活に参加できるような取り組み。
- ・外国の文化を紹介する講座を開催し、異国文化や生活習慣について学ぶ機会を提供する。
- ・日本で生活を始める外国人に向けた日本での生活ルールについて学ぶ講座を開催し、日本での生活について学ぶ機会とする。
- ・行政・生活情報の多言語化、相談体制の整備。
- ・地域における多文化共生の取り組みの促進・支援。
- ・医療・保険・福祉サービスの提供環境の整備。
- ・災害発生時の情報発信・支援の充実。
- ・行政の施策の方向性がみえない、解りやすい施策を示してほしい。

【全体を通した考察】

- ・多文化共生を進めるため、文化理解講座・外国語指導・交流会の開催に力を入れている団体が多い。
- ・日本人の外国人に対する意識と言葉の問題が多文化共生の1番の課題と考えている団体が多かった。
- ・行政への要望も日本語学習の支援と交流会の開催という意見が複数件あった。